なるほど！子どもアカデミー

2016 年度活動報告書

目次

「子どもアカデミー」活動の趣旨と概要..... 1

１．土曜チャレンジ・アップ教室の概要..... 2
（１）活動の経緯・趣旨
（２）学生組織
（３）活動スケジュール
（４）参加人数

２．活動報告..... 5
２－１．チラシ及び企画書..... 5
（１）一瞬で絵が変わる！マジックキューブ
（２）ピンホールカメラを作ろう！
（３）ふりふり発電実験
（４）万華鏡を作ろう！
２－２．活動報告..... 17
（１）葉脈標本
（２）和紙照明
（３）一瞬で絵が変わる！マジックキューブ
（４）ピンホールカメラを作ろう！
（５）ふりふり発電実験
（６）万華鏡を作ろう！

３．活動を振り返って..... 73
（１）学生からの意見..... 73
（２）教員からの意見..... 83

成果公表..... 85

あとがきにかえて..... 88

「子どもアカデミー」活動の趣旨と概要

子どもアカデミー代表　高木　徹

「子どもアカデミー」は、教師をめざす児童教育学科の学生たちが、小学生に楽しく分かりやすく学習を支援する課外活動です。2013 年度から活動が始まりました。

児童教育学科では２年次秋学期に小学校で「観察実習」を行い、小学校現場の雰囲気に慣れたうえで、３年次春学期に「小学校教育実習」に臨みます。ただ「観察実習」では授業を担当することはできず、「小学校教育実習」で初めて授業を担当する学生たちにとっては、いろいろと戸惑うことも多いと思われます。そこで、「小学校教育実習」の前に、子どもたちに教える機会をつくりたい、という狙いで始められたのがこの活動です。

2016 年度は春日井市教育委員会主催の土曜チャレンジ・アップ教室を開催しました。土曜チャレンジ・アップ教室では、春日井市立小学校 4 校に出向き、小学 4 年生から 6 年生までの子どもたちを対象に、月に 1 回土曜日にセミナーを実施しました。当日までに、学生スタッフは何週間も担当教員のもとで研修を受け、教科学習のほか、授業構成や制作物の指導などを学び、子どもたちに伝えるかにはどのような工夫が必要かを検討しました。土曜チャレンジ・アップ教室での全ての活動は活動の経緯や具体的な出来事を記録し、講座終了後には報告会を実施し、講座内容の振り返りと今後の課題を見出し、本報告書を作成しました。

この一連の活動が 2016 年度の子どもアカデミーの活動です。学生は、小学生の様々な分野の学習をきちんと支援できるよう、大学の授業以外の時間にも準備を重ねており、その準備には、児童教育学科の教科専門の教員たちが強力にバックアップしました。

最後となりましたが、2016 年度の活動は春日井市教育委員会及び春日井市立小学校の学校長をはじめとする多くの方々のご支援を得て活動できたことに感謝申し上げます。このような活動は、学生たちやそれを支える教員の地域貢献の場であると同時に、学生の教育実践力を育てる貴重な機会の場でもあります。今後も持続的に本活動を推進していきたいと考えています。

「子どもアカデミー」教員組織（2016 年度）

教授	高木　徹		
	吉田　直子	三島　浩路	
准教授	小笠原　豊	橋本　美彦	小池　嘉志
	長尾　寛子	古市　真智子	
講師	味岡　ゆい		

１．土曜チャレンジ・アップ教室の概要

(1) 活動の経緯・趣旨

本年度は、春日井市立北城小学校・松原小学校・勝川小学校・松山小学校にて、土曜日の午前中 2 時間を用いて、活動を実施した。対象は 4～6 年生。「楽しくてちょっと学べる土曜日学習」をテーマに、児童らが小学校で学習した内容を活かした企画設定を目指し、学習内容の応用を通して、児童らの発展的発想力を養うことが活動のねらいである。本活動は、春日井市教育委員会学校教育課の支援のもとに実施した。

(2) 学生組織

学生は 65 名（1 年生 32 名、2 年生 28 名、3 年生 5 名）が参加した。

参加学生を 4 チームに分け、1 チーム 14、16 名とした。1 チームで 1 つの企画を練り、10 月から 12 月にかけて 3 つの小学校へ出向き企画を行った。企画リーダーは毎月異なる学生が担当し、企画を進行した。土曜チャレンジ・アップ教室の当日運営は、受付から誘導、企画担当などすべてを 1 チームのみで対応した。しかし、毎企画、別のチームから取材班 2～4 名を派遣させ、企画後、子どもアカデミーHP 用の報告書と企画に対する意見書をまとめ、お互いの企画に対しての課題を検討した。

リーダー宮部成矢（16 名のチーム）　*一部参加

2 年生	粟生友貴	宇佐美大地	神谷澪男*	鈴木綾乃	鈴木俊佑
	渡辺真由				
1 年生	赤堀亜弓	稲田千幸	國丸彩和実	中野弘貴	丹羽広香
	増田奈笑	松尾貴雄	松澤史憲	村田大晟	

リーダー稲垣雄太（14 名のチーム）

2 年生	浅井来貴	鈴木彩乃	成瀬賢一	吉岡隼大	渡邉僚太
1 年生	石谷彩恵	岩井妃菜	上坂真生	加藤眞衣	河邉俊太郎
	倉地真歩	山田悠斗	山田蓮		

リーダー深見茉由**（14 名のチーム）　*一部参加　**全体サブリーダー

2 年生	飯沼　勝悟	池林幸太郎	鈴木　情剛	丹羽　真康	矢野まりな
1 年生	伊藤　峻	片岡　巧	作山隆一郎	高島祐香	田中真生
	船橋明日香	船場直道*	森中智愛		

リーダー中島宏樹***（14 名のチーム）　***全体リーダー

2 年生	伊藤優樹	春日部匠	熊谷謙一郎	竹内翔哉	永江亜椰
1 年生	木股和希	木村瞭汰	清水　航	鈴木遥大	宮﨑華源
	山田沙奈	山田菜摘	若林知沙		

その他

3 年生	窪田真子	下村優介	塚原嘉洋	平野勝洋	松岡祐太

(3) 活動スケジュール

土曜チャレンジ・アップ教室は基本的に月に1回、土曜日の午前中に小学校へ学生が出向き行った。企画の準備は全体会にて学生間で日程を決め、実施した。全体会及び企画の日程は表1である。

表1. 2016年度土曜チャレンジ・アップ教室スケジュール

全体会	北城小	松原小	勝川小	松山小
4月　新入生募集・子どもアカデミー2015説明会グループ分け・全体会				
6月 第3週 水曜日	6/11 Top:鈴木（宮部T） 「和風照明」 Teacher:味岡	6/11 Top:吉岡（稲垣T） 「葉脈標本」 Teacher:吉田		6/25 Top:中嶋（中嶋T） 「葉脈標本」 Teacher:高木
7月 第3週 水曜日	7/2 Top:浅井（稲垣T） 「葉脈標本」 Teacher:味岡	7/2 Top:神谷（宮部T） 「和風照明」 Teacher：味岡	7/9 Top:伊藤（中嶋T） 「葉脈標本」 Teacher:小笠原	7/9 Top:鈴木（深見T） 「和風照明」 Teacher:小笠原
9/12 10月 第3週 水曜日	10/29 Top:深見（深見T） 「ふりふり発電実験」 Teacher:味岡	10/29 Top:永江（中嶋T） 「万華鏡を作ろう！」 Teacher：味岡	10/22 Top:宮部（宮部T） 「一瞬で絵が変わる！マジックキューブ」 Teacher：味岡	10/22 Top:稲垣（稲垣T） 「ピンホールカメラを作ろう！」 Teacher：味岡
なし	11/12 Top:春日部（中嶋T）「万華鏡を作ろう！」 Teacher：小笠原	11/12 Top:飯沼（深見T） 「ふりふり発電実験」 Teacher:小笠原	11/26 Top:渡邊（稲垣T） 「ピンホールカメラを作ろう！」 Teacher:吉田	11/26 Top:稲田（宮部T） 「一瞬で絵が変わる！マジックキューブ」 Teacher:吉田
12月 第3週 水曜日	12/10 Top:松澤（宮部T） 「一瞬で絵が変わる！マジックキューブ」 Teacher:高木	12/10 Top:加藤（稲垣T） 「ピンホールカメラを作ろう！」 Teacher:橋本	12/17 Top:田中（深見T） 「ふりふり発電実験」 Teacher:古市	12/17 Top:若林（中嶋T） 「万華鏡を作ろう！」 Teacher:長尾

(4) 参加人数

土曜チャレンジ・アップ教室への児童参加は、1 企画定員 30 名と設定し、募集を行った。土曜チャレンジ・アップ教室当日関わった参加者を表 2 に示す。

表 2. 2016 年度土曜チャレンジ・アップ教室への参加人数

		北城小	松原小	勝川小	松山小
6月	学生数	20	18		18
	児童数	34	16		29
	大学教員	1	1		1
	その他	8	3		5
7月	学生数	13	15	13	15
	児童数	18	18	13	30
	大学教員	1	1	1	1
	その他	3	3	4	6
10月	学生数	10	9	13	14
	児童数	20	24	11	15
	大学教員	1	1	1	1
	その他	1	3	1	1
11月	学生数	11	8	14	9
	児童数	25	11	23	18
	大学教員	1	1	1	1
	その他	2	1	3	3
12月	学生数	12	12	9	16
	児童数	16	19	28	33
	大学教員	1	1	1	2
	その他	3	3	7	2

学生数(延べ)　249　名
児童数(延べ)　401　名

２．活動報告

土曜チャレンジ・アップ教室 2016 で提案した企画は 4 種類であり、10～12 月に実施した。6～7 月は、土曜チャレンジ・アップ教室 2015 で提案した企画を行ったため、ちらし及び企画書は割愛した。

２－１．ちらし及び企画書

（１）一瞬で絵が変わる！マジックキューブ（指導教員：小池）

10 月 22 日（土）勝川小学校で行った企画計画書及びチラシを記した。

企画に対する児童の目標として、①立体に興味を持ちながら製作をする、②算数の楽しさに改めて気付く、学生の目標として、①児童に安全かつ的確な指導を行う、②企画の楽しさや、算数への興味が深まるような発問をすると設定した。

タイムスケジュール

時間	内容	備考	担当
９：３０ （１０）	・あいさつ ⑴「導入」 ・立体にはどんなものがあるか考える。 ・学生が作った作品を見る。 （作品の絵の変化に興味をもつ。）	・起立→礼→着席 ・注意事項伝達 ・担当学生は１人１テーブルで待機 ・導入を行う学生は、発問として立体を連想させる。（身近な例を出せると良い。） ・算数との関連の説明 ６年　いろいろな立体 ・児童を教卓の近くに集めて、実演で作品を紹介する。	担当（宮部） ＰＣ（稲田） 担当（中野） ＰＣ（稲田）
９：４０ （１５）	⑵「立方体を作る」 ・切り開かれた牛乳パックを指定の大きさに切る ・一辺が６．８㎝の正方形を牛乳パックに書きその線に合わせて牛乳パックを折り四角の輪を３つ作る。 ・四角の輪を３つ繋げて立方体を作る。	・はさみを使うので安全に配慮する。 同じ立体を４つ作らせる。	担当（丹羽） ＰＣ（稲田）
９：５５ （２５）	（３）立体を組み合わせる ・糸を利用して、自分たちが作った４つの立方体を組み合わせる。 （この糸が、絵が変わる原因だということに気付く。）	. ・４つの立体がどのように組み合わさっているかを考えさせる。 ・２人１組でひもを押さえる人とテープをはる人に分かれる。	担当（松澤） 補助（増田） ＰＣ（稲田）

10：20 （10）	（4）休憩	・もう一度立ち入り禁止区域の説明をする。	担当（松尾）ＰＣ（稲田） はさみは回収して事故が起こらないようにする。
10：30 （5）	(5) 土台を付ける ・4つの立体の端から出ている糸のあまりを土台の段ボールに穴を開けて通し、固定する。	立体の面がしっかり変わるように調節してから固定させる。	担当（栗生） ＰＣ（稲田）
10：35 （25）	（6）絵を描く ・立体と同じ大きさの画用紙2枚に絵を描き、それぞれ 4 等分して、立体に張り付ける。 ・必要に応じて、デコレーションする。	・裏表で変化が分かるように、2種類の絵を描かせる。 ・子どもたちの自由な発想を大切にする。	担当（鈴木あ） ＰＣ（稲田）
11：00 （10）	（7）鑑賞 ・絵が一瞬で変わることに改めて興味をもつ。 ・友だちの作品を見て、友だちの作品の良さに気付く。	・作品は、強く振り過ぎて壊さないように注意させる。 ・できるだけ多くの友だちの作品も見て回るようにする。	担当（村田） ＰＣ（稲田）
11：10 （5）	(7) まとめを聞く ・今回の企画をきっかけに様々な立体や算数に興味を示す。	・今回子どもたちが作った作品を 2 つ組み合わせた TOM－CUBE という作品を紹介する。	担当（村田） ＰＣ（稲田）
11：15 （5）	(8) 感想記入・次回予告 ・あいさつ	名札の裏に感想の記入 （稲垣班　見えない世界を知ろう） 起立→礼	担当（宮部） 名札の回収
11:20 （10）	見送り、片付け	・各班の担当の学生は児童を昇降口へ案内する。 ・確実に保護者に引き渡す。	班の担当がない学生は片付け

注意点・メモ

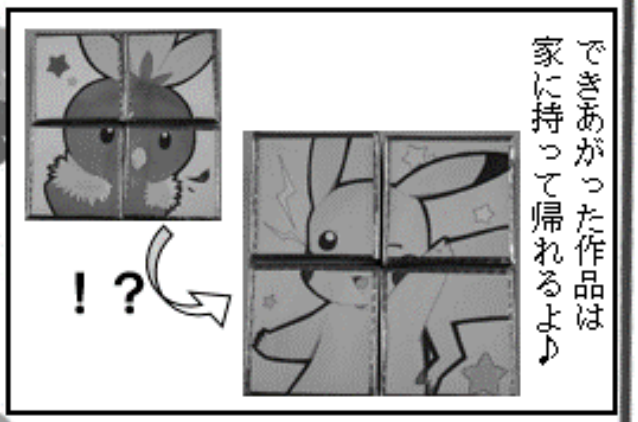
・はさみなどの刃物を使う際は怪我に最善の注意を払う。

・無理に出来上がった作品を振りすぎない。

・立体がどのように組み立てられたか理解させる。

土曜チャレンジ・アップ教室

絵が一瞬でチェンジ！
えっ？なぜだろう？？？
マジックのような不思議なキューブ
を作って、みんなを驚かせよう！



一瞬で絵が変わる！マジックキューブ

4～6年生
(30名程度)

11月26日(土)9:30～11:30
松山小学校(家庭科室)

中部大学の学生が指導します。

※ 保護者の送り迎えをお願いします。
※ お子様のみでの参加となりますが、保護者も見学はできます。
※ お子様に上靴を持たせてください。

申込み

切り取って、 月 日（ ）までに職員室の前の応募箱に入れてください。

児童
年 組 名前

保護者
名前 電話番号

※申込み多数の場合は抽選になります。
※抽選の有無に関わらず、結果をお手紙で連絡させていただきます。

（２）ピンホールカメラを作ろう！（指導教員：橋本）

10 月 22 日（土）松山小学校で行った企画計画書及びチラシを記した。
企画に対する児童の目標として、①光の性質を知り、楽しく光について学ぶ、②工夫を凝らし、オリジナルな作品を作ること、学生の目標として、①今までの企画を頭に入れ、児童への接し方、指導方法などをレベルアップさせ、堂々とし児童の目を見て話せると設定した。

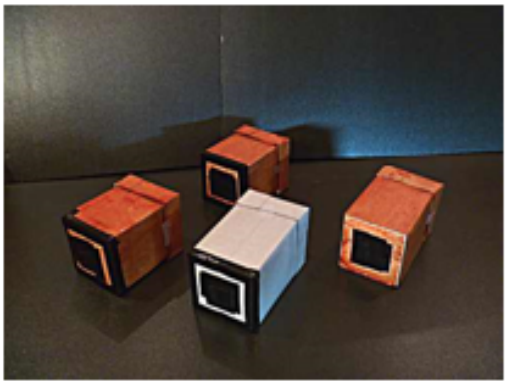
タイムスケジュール

時間	子どもの行動	学生の行動
9:30	挨拶 ・[注意点(禁止区域、危険なこと)、大学生の言うことを聞く、体調が悪くなったら伝えること、合図があったら前を見て話を聞くこと]を確認する。	司会：稲垣 PC：石谷
9:32	導入 子どもを前に集める（教壇に触らない程度の場所） 水を入れたコップに鉛筆を入れ、ずれているところを見る。(解説)	演示実験・説明：渡辺 水と空気の境目で光が曲がることを伝える。
9:40	ペットボトルに入れた造形の花が消えたり見えたりする実験をみる。	演示実験・説明：鈴木
9:50	ピンホールカメラの作り方の説明を聞く ・設計図に合わせて型紙をきること	司会：吉岡　　PC：石谷 補助：川辺 ・出来上がった作品を見せ、研究員が覗きリアクションをとり、興味をひく
9:55	ピンホールカメラの作成 ・設計図に合わせて型紙を切る （実線のみを切る）	学生 ・制作のサポート 注　カッターの取り扱いに注意する ＊赤い線に合わせて切らせる。
10:10	休憩 ・注意事項の確認	司会：成瀬 ・立ち入り禁止区域、トイレの場所確認 ・水分補給、暴れないことを確認する

10:20	ピンホールカメラの作り方 ・レンズの取り付け方 ・折り方 ・ガムテープでとめること	司会：浅井 PC：山田れ ＊点線で山折させる
10:25	ピンホールカメラの作成 ・レンズを取り付ける ・線に合わせており組み立てる ・ガムテープでとめる	学生 ・製作の補助をする
11:00	ピンホールカメラを覗き、観察する	司会：鈴木 どのように見えたのかおさえる
11:05	ピンホールカメラの仕組みを理解する	司会：成瀬 ・虫眼鏡の例を出し、説明する
11:10	ピンホールカメラを装飾する（時間の限り）	学生 作成の補助をする
11:15 11:20	今回のまとめを書く。 ・名札の裏に感想を書く。 次回のセミナーのお知らせを聞く。 ・起立⇒礼⇒着席 口座終了	司会:稲垣　　ＰＣ:山田れ ・次回の説明を稲垣がお知らせする。 ・各班で名札を回収し、認定書を配布 ・児童が荷物をまとめられたら、廊下に集合させ、全員そろったら昇降口へ誘導する。

土曜チャレンジ・アップ教室

魔法のカメラをのぞくと…そこにはフシギな世界が！？身の回りにあるものを使った光のマジックから、魔法のカメラのしくみをみんなで考えてみよう！



作った魔法のカメラは持って帰れるよ♪

魔法のカメラを作ろう！

4～6年生
(30名程度)

10月22日(土)9:30～11:30
松山小学校(家庭科室)

中部大学の学生が指導します。

※ 保護者の送り迎えをお願いします。
※ お子様のみでの参加となりますが、保護者も見学はできます。
※ お子様に上靴を持たせてください。

申込み

切り取って、○月○日（○）までに職員室の前の応募箱に入れてください。

児童
年　組　名前

保護者
名前　電話番号

※申込み多数の場合は抽選になります。
※抽選の有無に関わらず、結果をお手紙で連絡させていただきます。

（３）ふりふり発電実験（指導教員：小笠原）

10 月 29 日（土）北城小学校で行った企画計画書及びチラシを記した。
企画に対する学生の目標として、①積極的に子どもに関わり、取り組みやすい環境を作ること、②子どもたちの理科への関心を高めることと設定した。

タイムスケジュール

時間	学習活動	手だて・注意事項	学生の活動
9:30	1 あいさつと導入 ・あいさつ ・注意事項の確認 ・電気についての話	 ・元気にあいさつ （起立→礼→着席） ・①立ち入り禁止区域 ②危険行為 ③体調不良になったら ・理科単元との関連を説明 ・明かりをつけるには何を使うか 「懐中電灯→電池」 「部屋の明かり→コンセント」 →今回はそれらを使わないことを伝える	担当【深見】
9:40	2 道具の確認	・バットの中身を確認する ・ストロー ・エナメル線 ・定規 ・はさみ （１人１個×５人分） ・ビニールテープ （１班１個）	担当【鈴木】
9:45 9:55	3 コイルの作り方説明 ❶ストローに印をつける ❷エナメル線をとめテープを巻く ❸エナメル線を巻き、巻き終わりを 15 ㎝残して切る 制作開始	 ・子どもを前に集める ・コイルとは何かについても説明する（モーターなどの具体例） ・テープでとめたりする作業は一人ではやりにくいので、二人で協力してやるように指示する	担当【高島・船橋】

	【30 分間】	・制作の時間が 30 分であることを伝える（タイマー）	
10:15	4　休憩	①立ち入り禁止区域には入らない ②あばれない ・作業が遅れている子どもにはそのまま作業を続けさせて良い ・休憩中にバットの中に 紙やすり（1 人 1 枚×5 人分） LED（赤、青各 5） ネオジウム磁石 （1 人 5 個×5 人分） ぽんぽん（1 人 2 個×5 人分） を、追加する	担当【森中】
10:25	5　電磁誘導についての説明	・なぜ電気が流れたのか電磁誘導について説明	担当【飯沼】
10:35 10:45	6　LED を取り付ける ❶エナメル線の端をやすりで磨く ❷LED を捩ってつなぐ ❸ストローに LED を取り付ける ❹磁石を入れる 作業開始 【25 分間】	・なぜ電気が流れたのかわかりやすく説明 ・子どもを前に集める ・制作時間が 25 分であることを伝える（タイマー） ・班の中で早く終わってしまった子にはペンを用意しておき、作品に絵を描かせたりする	担当【丹羽・田中】
11:10	7　感想記入と認定証贈呈 ・名札の裏に感想を書く	・感想を書いた名札と交換で認定証を渡す	担当【矢野】
11:20	8　あいさつ	（起立→礼） ・親が迎えに来ていない子は班でまとまって昇降口まで行く ・迎えが来るまで昇降口で一緒に待つ	担当【池林】

土曜チャレンジ・アップ教室

豆電球に明かりをつけるために、
みんなは何をしますか？
電池もコンセントもスイッチも使いません。
どうやって電気を発生させるのか…
実験してみましょう！

完成品は、持って帰ってあそべるよ★

ふりふり発電実験

4～6年生
（３０名程度）

10月29日(土)9:30～11:30
北城小学校(家庭科室)

中部大学の学生が指導します。

※ 保護者の送り迎えをお願いします。
※ お子様のみでの参加となりますが、保護者も見学はできます。
※ お子様に上靴を持たせてください。

申込み

切り取って、 月 日（ ）までに職員室の前の応募箱に入れてください。

児童
年 組 名前

保護者
名前 電話番号

※申込み多数の場合は抽選になります。
※抽選の有無に関わらず、結果をお手紙で連絡させていただきます。

（４）万華鏡を作ろう！（指導教員：長尾）

10 月 29 日（土）松原小学校で行った企画計画書及びチラシを記した。

企画に対する児童の目標として、①鏡の反射によって生み出される万華鏡の仕組みに興味を持ち、自分好みのオリジナル万華鏡を作成する、学生の目標として、①自分の役割を理解し,その役割に対し責任をもってしっかりと果たす、②積極的に児童と向かい合う態度を身に着けるとともに、先生とした毅然とした態度を意識すると設定した。

タイムスケジュール

分	子どもの活動	学生の活動	備品
9：30 9：35	・あいさつ（永江） ・導入	・起立→礼→着席	
9：40	・材料の確認（山田さ）	・グループごとに前を見ながら確認す る。	
9：45	・説明を聞く①（宮崎）	・ミラーの組み立て方について説明する。 ＊万華鏡用ミラーに貼られている保護フィルムはまだ、はがさないように伝える。	
9：50	・制作① ミラーを組み立てる	・万華鏡用ミラー３枚の鏡を内側に向け三角柱のように組み合わせ、裏をしっかりテープで止める。 ・最後の１枚を貼るとき万華鏡用ミラーの保護フィルムをめくらせる。	ミラー、テープ
10：00	・説明を聞く②（山田な）	・プラ板と黒の画用紙の切り方を説明する。 プラ板を紙芯の中に入る大きさに切るよう伝える。	
10：05	・制作② プラ板と黒の画用紙を切る	・自分の持っている紙芯のサイズに合う線に合わせて切らせる。	はさみ、プラ板、黒の画 用紙
10：15	・説明を聞く③（鈴木）	・芯とミラーの組み合わせ方、画用紙のはり方について説明する	

10 : 20	・制作③ 芯とミラーを組み合わせる 黒の画用紙をはる	・テープに指紋がつかないように注意 ＊のぞき穴が三角柱の中心に来るようにアドバイスする。	テープ、ミラー、紙芯
10 : 25	休憩（伊藤）	・注意事項を連絡する	
10 : 35	・説明を聞く④	・プラ板の入れ方、ビーズについて説明する	
10 : 40	・制作④（若林） プラ板を入れビーズを入れる		プラ板、ビーズ、白のビニール袋、輪ゴム
10 : 45	・説明を聞く⑤	・装飾についての説明をする	
11 : 50	・制作⑤（春日部） 装飾をする	・子どもの発想を大切にし、あまり手出しをしない ・白のビニール袋の余分なところを切るように指導する	白画用紙、テープ、のり、ハサミ、折り紙、マスキングテープ
11 : 00	・鑑賞（熊谷）	・自分の作品と他の友達の作品とを比べて、違いや魅力に気づくようサポートする	
11 : 10	まとめ（永江） ・感想記入とあいさつ ・記念撮影 ・次回予告（竹内）	・名札の裏に感想を記入させる ・認定証と名札を交換する	認定証
11 : 20 11 : 30	見送り 片づけ		
12 : 00	完全撤収		

土曜チャレンジ・アップ教室

幻想的できれいな万華鏡を、自分たちの手で作り出すことができます。身の回りにある材料と、鏡を使って、世界に一つだけのオリジナル万華鏡を作りましょう！！！

できあがった作品は家に持って帰れるよ♪

万華鏡を作ろう！

4～6年生
(30名程度)

10月29日(土)9:30～11:30
松原小学校(家庭科室)

中部大学の学生が指導します。

※ 保護者の送り迎えをお願いします。
※ お子様のみでの参加となりますが、保護者も見学はできます。
※ お子様に上靴を持たせてください。

申込み

切り取って、　月　　日（　）までに職員室の前の応募箱に入れてください。

児童
　　年　　組　名前

保護者
名前　　電話番号

※申込み多数の場合は抽選になります。
※抽選の有無に関わらず、結果をお手紙で連絡させていただきます。

２－２．活動報告

（１）葉脈標本

A. 松原小学校 6 月 11 日

1）取材報告（報告者：飯沼、深見）

1．企画概要

日時：6 月 11 日（土）9 時半～11 時半

2．参加者

小学 4～6 年生 16 名、大学生 18 名

大学教員 1 名、小学校関係者 1 名、教育委員会 1 名、運営指導者 1 名

3．活動報告

3－1．活動の様子

導入から子どもたちの興味を引いていて、楽しい活動になるだろうと感じた。子どもたちもリラックスした様子で活動に臨めていたと思う。説明に集中させるように学生たちがしていたからスムーズに進んでいた。学生も子どもたちも笑顔で活動していたから教室全体の雰囲気が良く感じられた。

3－2．企画の内容

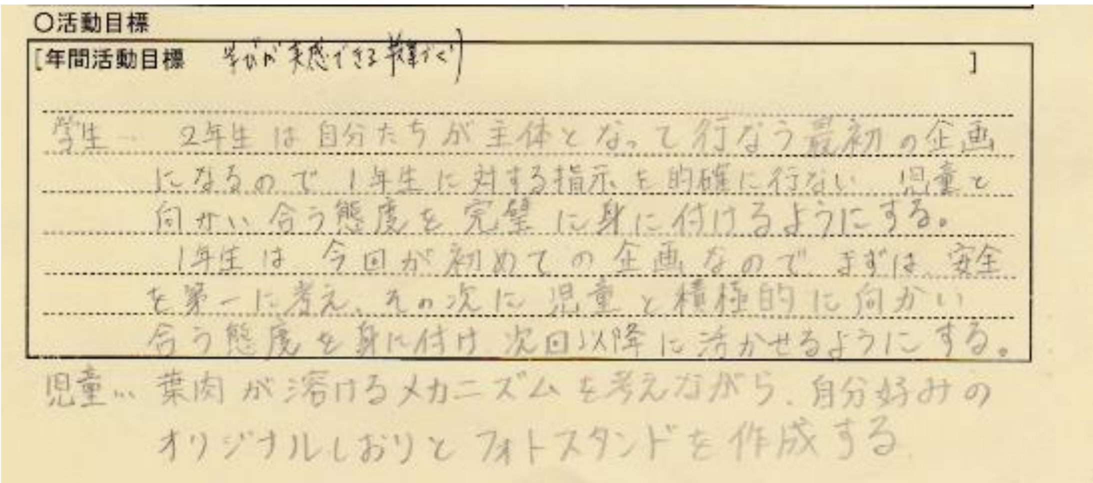
子どもに号令をかけさせていて、子ども主体になるようになっている。手を 3 回叩いたら静かにするという独自のルールが作っている。クイズを用いての時間調節、最後の答えを実際にみせるなど展開が面白い。活動中は学生も緊張感をもち、しっかりと仕事をこなしているが、休憩中に準備するものを忘れていて休憩後にゴタゴタしている場面が見受けられた。最後は時間がギリギリになり急いで活動を終わらせてしまっていたから、時間に学生一人ひとりが注意して動けると良いと思う。

3－3．活動写真

2）児童感想文

学年	感想
4	おもしろかった
4	葉みゃくのところのなまえがかわらんかったからわかってびっくりした。
4	さいしょは、むずかしかったけどじょうずにできました。
5	欠席
5	おもしろかったでーす！！
5	葉肉を手でこすってとるのがむずかしかった。色をつけたり台紙を選ぶのがたのしかった。
5	葉脈のことが分かりました。実験が楽しかったです。
5	色ぬりが楽しかった。かわいいしおりとフォトスタンドができてうれしかった。
5	色がぬることは楽しかったし、いい作品が出来てよかったです。
5	ふつうの葉っぱから、葉脈だけにするときにとっても楽しかったし、色をぬるときも「タンタン」して楽しかったので、また、やりたいと思いました。
5	楽しかった。ようにくをはがすのがたいへんだった。(やぶれたから)
5	とても楽しかったです。特に葉にくをはがす作業が楽しかったです。
6	葉っぱ一まい一まいびっしりとようみゃくがついていることがよくわかった。
6	今日は楽しましてくれてありがとう。また参加します。
6	二回目でも、物がちがったので、楽しかったです。
6	欠席
見学者(3年)	かわをむいたり色をむったりして楽しかったです。

3）活動経過


○活動目標

[年間活動目標　学びが実感できる教室づくり　]

学生…　2年生は自分たちが主体となって行なう最初の企画になるので1年生に対する指示を的確に行ない児童と向かい合う態度を完璧に身に付けるようにする。
1年生は今回が初めての企画なのでまずは安全を第一に考え、その次に児童と積極的に向かい合う態度を身に付け次回以降に活かせるようにする。

児童…　葉肉が溶けるメカニズムを考えながら、自分好みのオリジナルしおりとフォトスタンドを作成する

活動報告書

運営指導者からのご意見・評価

（サイン　　　　　）

○活動を終えて

①準備過程

ヒイラギの葉が硬く、水酸化ナトリウムで煮込むのに時間が去年よりもかかった。水酸化ナトリウムの濃度を濃くするか、2回煮込むとだいぶ葉肉が取れた。
学生で活動に出席しない子がいた。

②企画の流れ・企画内容

葉脈標本を行う上での注意事項の説明をし、作り方の実演。葉脈標本に関するクイズを行い、葉肉除去の方法を説明。子どもに作業をしてもらい体験。そして葉脈に色をつけ、しおりとフォトスタンドを作成。

③学生の活動

- 会場設営（受付、教室、禁止区域）
- 演示実験や説明（作り方など）
- 作品づくりの補助
- 子どもの見送り
- 片付け、忘れものチェック
- 反省会

④テーマに対する指導の工夫

- 葉脈標本を行う上での注意事項を説明し、企画に入っていったこと。
- 演示実験を行うことで、子どもたちにやり方を見せつつ興味を引かせた。
- 科学的な説明を取り入れ、葉肉が溶けるメカニズムについて考えさせた。

⑤目標達成度

2年生は、1年生に指示をしっかりと出せていてよく動けていた。
1年生は、今回が初めての企画であったにもかかわらず、子どもたちとよくコミュニケーションがとれていたのでよかった。
とにかくけがなく終われたことが一番よかった。

⑥総合評価

初回の企画でどうなるか不安だったが、けがもなく時間通りにすべてを終わらせることができたので、よかったと思う。今回の経験と反省をふまえて次回の企画はよりよいものにしていきたいです。

教員からの意見・評価

1) 当日の活動について
準備、内容、片づけまでスムーズでチームワークもよく、子どもに伝えたいことが説明できて良かった。テンポも。最後にまとめや発展的な意識づけがあるともっと良かった。2年が1年を支え・リードする姿がよ良かった。

2) 上述の感想について
「子どもは何を学んだのだろう」という視点での振りかえりもあると良かった。

（付記：吉田直子 6/15）

B. **松山小学校 6 月 25 日**

1）**取材報告**（報告者：池林）

1. 企画概要

日時：6 月 25 日（土）9 時半～11 時半

2. 参加者

小学 4～6 年生 29 名、大学生 18 名

大学教員 1 名、小学校関係者 1 名、教育委員会 3 名、運営指導者 1 名、観覧保護者 7 名

3. 活動報告

3－1. 活動の様子

・児童が楽しんでできていたので良かった。

・班の担当の学生が静かにと児童に言えると良い。

・比較的学生の数が多いのでスムーズにできていたと思う。

3－2. 企画の内容

・声が比較的小さかった。パワーポイントも見にくかった。児童への説明の順番があやふやで一人の学生が毎回まとめて注意していたので、担当の学生それぞれがきちんと注意できるといいと思う。流れはスムーズだった。小さい声でただなんとなく説明するのは児童も聞く気にならないから、いいね？大丈夫？など言うと良いと思った。学生一人一人の自覚が大事だと思う。

2）**児童感想文**

学年	感想
4	葉っぱって葉肉葉みゃくがあったんだ。
4	むずかしかったところもあったけどたのしかったです
4	たのしかった。わふうしょうめいもやりたい。
4	今日はしおりとフォトスタンドを作ってむずかしかったけれど楽しかったです。ひいらぎの葉っぱで、しおりなどがつくれてうれしかったです。今日は、すごく楽しかったです！
4	今日は、とても楽しくて、とてもびっくりしました。それは、ひいらぎの葉っぱをにこむと葉肉をとかせるということです。
4	とても楽しかった。またやりたい。〇〇先生ダメダメなところもあるけどすばらしい！！
4	とても楽しかったまたやりたいです
4	水酸化ナトリウムの役割がわかって勉強になりました。
4	たのしかた。また作りたい。
4	今日は、色々な事を学びました。たとえば、水酸化ナトリウムの役割は、タンパク質をとかすや、葉肉をとかす。という事がわかって、おもしろかったです。

4	葉っぱで、フォトスタンドやしおりを作ることができるなんて、すごいと思いました。色をぬるのが楽しかったです。
4	しらなかった、ことやわかってよかったです。先生もていねいに教えてくれてよかったです
5	たのしかった。次のチャレンジも当たりたい。もっとやりたい。
5	水酸化ナトリウムや葉脈の役割などがわかってよかったです。フォトフレームやしおりが作るのが楽しかったので、またやりたいです。
5	水さんかナトリリュウムは、葉肉をとかすこうかがあるとしりました
5	はじめてやった土ようチャレンジアップをやったけど、すごくたのしかったのでまたやってみたいです。
5	勉強にもなったし、色々な工作もつくれたしとても楽しかったです。みなさん大学でもがんばってください！おうえんしてます！
5	葉脈のしおりやぽとふれーむをつくれて、いい体験ができました。タンパク質や葉肉を溶かす水酸化ナトリウムは、このような役割があるとはしりませんでした。〇〇先生は、イジワルでした。
5	楽しかったです。先生の説明が分かりやすくて、やりやすかったです。
5	とても楽しかったです。またやりたいです。しおり作りも楽しかったです。
5	フォトフレームとしおりを作るのが楽しかったです。クイズなどもあったのでみんなで協力して答えをだすのもおもしろかったし楽しかったです。またやってみたいと思いました。べんきょうにもなったのでいい勉強になったと思いました。
5	いろんなことをおしえてくれたり、わかりやすいしいべんきょうになったなと思いました。みじかいじかんだったけどありがとうございました。
6	ヒイラギの葉の葉肉をむいたりして、色をぬって、しおりやフォトフレームをつくったりして、楽しかった。また、やりたいと思った。
6	葉っぱの色々な事がよく分かった。とても楽しかった。
6	お兄さんたちと、いっしょに、いろいろな事を学べてよかったです。こんどの、アップきょうしつも、がんばりたいです。
6	ヒイラギの葉の葉肉をはがすのがとてもおもしろかったです。水酸化ナトリウムの性質もよく分かりました。
6	今日はいろいろなことがわかりました、たとえば水酸化ナトリウムは、タンパク質や葉肉をとかす役割があることを知りました、またこういうきかいがあったら、さん加したいです。
6	水酸化ナトリウムの役割がよくわかりました。今日は楽しかったです。
6	葉脈標本をつくって、とても楽しかったです。しおりも、少し失敗してしまったけどまあまあうまくできました。

3） 活動経過

[年間活動目標　学生が実感できる授業作り　]

学生は、今回が初企画になるので、子どもとの触わり方を学べるようにする。そのために2年生は、自分の事だけでなく、1年生のことも意識するようにする。自分の役割をしっかりと把握し、責任感を持ちこなすことができるようにする。今回の企画は、危険な企画なのでけがががないように注意する

活動報告書

運営指導者からのご意見・評価

リーダーをはじめ、学生の役割分担がしっかりとできていた。
松山小では、はじめての回だったので、準備の面で大変だったと思います。
積極的に子どもともかかわっていてとても良かった。説明は長くならないようにテンポ良く進めて行けるとより子ども達の集中もとぎれないと思います。
あとは経験を積み重ねるのみだと思います。お疲れ様でした。（サイン　山岡　）

○活動を終えて

①準備過程 リハーサル、最終打ち合わせを流れをイメージできるように行った点は、良かった。荷物の準備は、その道具を使う人が行うことで当日その物がどこにあるのかを把握することが出来て、準備がスムーズになると思った。

②企画の流れ・企画内容 企画の流れ企画内容は、良かった。作業に差が出やすい企画なので、その差にどう対応するのかが今後の課題である。

③学生の活動 企画、準備・受付・誘導企画運営・片付けなどを行った。その中で企画運営・片付けに特に課題が残った。片付けに関しては、前校班、松岡さんまでが手伝ってくれた。しかしそれでも少し時間がかかりすぎた。次回はそこを改善したい。

④テーマに対する指導の工夫 葉脈が水酸化ナトリウムでは溶けない、ということを子どもが実感してから、その理由を説明するようにした。プリントを用いて葉脈の役割、働きについて児童に書かせるようにしたところ。

⑤目標達成度 子どもとの関わり方に関しては時間が経つにつれて自然なものになっていた。自分の仕事、役割についての責任を持つということに関しては課題が残った。今回の企画を通して、1年生は頑張って取り組んでいたのでその点はよかった。

⑥総合評価 今回の企画は、全体補助でついていた永江さんが前に出た学生の補助を多くしてくれたのでなんとか企画を終えることができた。また全体的に元気や明るさが足りなかったので、そこも直していきたい。

教員からの意見・評価

前で全体に向けて話をする際の声の大きさ、表情や態度、話の順序や指示の出し方など、今回の反省を活かして、さらなるレベルアップを目指してください。

C. **北城小学校 7 月 2 日**

1）**取材報告**（報告者：深見、髙島、田中）

1. 企画概要

日時：7 月 2 日（土）9 時半～11 時半

2. 参加者

小学 4～6 年生 18 名、大学生 13 名

大学教員 1 名、小学校関係者 1 名、教育委員会 1 名、運営指導者 1 名、

3. 活動報告

3－1. 活動の様子

児童

・みんな笑顔でとても楽しそうだった。

・個性豊かに楽しそうに作っていて、見ている側も楽しくなった。

学生

・準備や片付けが早くスムーズに進行されてよかった。

・児童のパワーに負けていて手に負えていないと思った。

3－2. 企画の内容

・企画中に学生同士でミスを指摘していた。

・説明の際、大きな声で抑揚をつけていたため、児童らに興味を持ってもらえていた。
だが全員が全員できていたわけではないので、できるようにしないといけない。

・クイズをした際に、問題が早く解けて騒がしくなったり、他ごとをする班が出てきた。
そのため学生が声をかけたり、考える時間を減らすなどの具体的な工夫をしなければならない。

・机に敷いてある新聞紙が扇風機の風で浮いてしまい、児童らの妨げとなった。
そのため、準備段階の際にテープをつけて浮かないようにしなければならない。

・葉脈、葉肉がわかりにくかったため、事前に理科の先生方にアドバイス受けもっとわかりやすい説明をできるようにする。

・手を三回叩いて静かにさせるという決まり事があったが、徹底されなかったため静かにできない場面が出てきた。そのため、次回から決まり事を作るときは徹底させる。

3－3. 活動写真

2）児童感想文

学年	感想
4	自分のすきなように、作れて、楽しかった！葉でしおりをつくるのがたのしかった。
4	家でもやりたい。
4	今日は、楽しかったです。またやるときは行きたいです。
4	上手に作品が出来てたのしかったです。またやってみたいです。
4	○○先生　やさしい　おもしろい　ニックネーム　○ゃん作　「プロい」　ぱちぱち
4	葉肉をはがすのが・・・とてもおもしろかったです。
5	しおりと、写真だてを作って、そのひもをリボンにしたら、その形でやってくれました。
5	葉みゃくをのこし、葉肉をはがすのがたのしかった。
5	とても楽しかったです。
5	色々な薬品がありました。得にその薬品で、人の手などがとけてしまうのがおどろきました。葉脈標本は記念になり、楽しかったです。
5	○○と○○が百人一首の問題に答えられなかった。またやりたい。○○がかのじょいるか答えてくれなかった。○○がかのじょいないれき５１年だって（笑）○○も（笑）かのじょつくれるようにガンバ～
5	○○くんがうるさすぎなのでちゅういしといて～。楽しかった。
5	またやりたい。たのしかった。またやりたい。
5	今日は、しおりとフォトスタンドを作ってとても楽しかったけど、○○君が少しうるさかった！ちゅういしてください！らいき気げんなおれ！
5	またやりたいと思った。
5	はがすやつがうまくできて楽しかった。しおりやポトスタンドを家でも使いたい。みんなにみせびらかしと思もった。
5	とても楽しかった。説明がとても分かりやすかった。ありがとうございました。
不明	パチパチ　てがよごれた。てがよごれた。てがよごれた。てがよごれた。○○作「たのしかった～」○○作「いけめんになりたい」

3）活動経過

[年間活動目標　学びが実感できる授業づくり　]

学生…今回は2回目の企画になるので前回の反省を生かす。1年生中心に企画を展開していく。その中で企画の運営の仕方を身につける。企画を行うにあたり、安全を第一に考え、児童と積極的に向き合う。オリジナル企画に向け、何事にも臨機応変に対応できるようにする。

児童…葉肉が溶けるメカニズムを考え、さらに身近に潜む薬品の有用性に気付き、自分好みのオリジナルしおりとフォトスタンドを作成する。

運営指導者からのご意見・評価

子ども達の楽しそうな様子が見られて良かったです。
手際良く準備もされていて、感心しました。
子供のおふざけモードの時はもっと叱っても大丈夫ですよ。

（サイン　）

○活動を終えて

①準備過程

準備時間が少なく慌ててしまい、忘れ物が多くなってしまった。グループの班員全員と確認し合うべきだったと強く感じた。私が連絡不足だったがリハーサル、最終打ち合わせの際全員集まってくれて本当によかった。

次回から綿密に連絡を取り、忘れ物[illegible]

②企画の流れ・企画内容

企画を行う上での注意事項の説明をした後、作り方の実演。葉脈標本に関するクイズを行い、葉肉除去の方法を説明。子どもに作業をしてもらい休憩。そして葉脈に色をつけ、しおりとフォトスタンドを作製。

③学生の活動

・会場設営（受付、教室、壇上作成）
・演示実験や説明（作り方など）
・作品づくりの補助
・子どもの見送り
・片付け、忘れものチェック
・反省会

④テーマに対する指導の工夫

・葉脈標本を行う上での注意事項を説明し、企画に入っていったこと。
・クイズを行うことで子ども達の興味を引き、薬品や葉脈について楽しく学習できたこと。
・まとめの際、薬品が身の回りにあることを説明

⑤目標達成度

前回の反省を生かしきれておらず残念。けがなく安全に企画を行うことができよかった。
臨機応変に行動する事はある程度できたがそれ以上にミスをしてしまい申し訳なかった。

⑥総合評価

まず忘れ物が多すぎた。1年生が前に立ち話す際に子ども達の方を向き話す姿が少ないと感じた。朝、神宿から歩いてくる班が遅れ迷惑をかけてしまった。子どもとの関わり方についてはみな力がついてきたと感じた。

教員からの意見・評価

6月と同じ企画内容であったため、進行については、スムーズに行えており、企画進行者の裏で、児童の作業準備や片付けをしている姿が見られ、協力的なチームワークが見られました。
ただ残念な点もいくつか見られましたので、10月以降の企画で改善してほしいと思います。
→忘れ物の有無・黒板を使用した際の書き順・取材対応を含む学生の身だしなみ（特に頭髪）・児童への対応（時間配分）

D. 勝川小学校 7 月 9 日

1）取材報告（報告者：丹羽）

1. 企画概要

日時：7 月 9 日（土）9 時半～11 時半

2. 参加者

小学 4～6 年生 13 名、大学生 13 名

大学教員 1 名、小学校関係者 1 名、運営指導者 1 名、観覧保護者 1 名

3. 活動報告

3－1. 活動の様子

企画が始まるまでは児童も少し緊張をしていたのか沈黙が続く場面が見られたが、実際の活動がはじまると児童もだいぶ緊張がとけていたみたいで学生と協力しながら笑顔で活動をおこなっていた。活動の内容もとても興味を持っていたみたいで説明やクイズなどに積極的に参加していた。また、今回は活動全体を通して学生が全て教えるのではなく児童たちに考えさせながら活動している場面がよく見られ先生と児童のような関係ができていたのでとてもよかったと思う。だが、休憩時間等に 1 人で静かにしている児童が数人いたので、その児童に気づいたときには声をかけたりすると良いのではないかと思った。児童だけでなく、学生も笑顔で活動できていたのでとても場の雰囲気がよかった。

3－2. 企画の内容

活動を始める時点で忘れ物（バット、葉っぱ、フォトフレームなど）が多々あったように感じた。また、クイズ等に使うホワイトボードのペンのインク切れなどもあったので事前準備の段階で確認しておくと良いと思う。また、パワーポイントとパソコンの場所が少し危なかったので児童が通ることも考えた上で場所を決めたほうがいいと思った。全体的にはクイズ等も含め学生がすべてを教えるのではなく児童に考えさせるという場面が多々あったので良いと思った。クイズは児童が積極的に参加する場面が見られた。活動中に机に学生が付いていないという状況があったので、そういう場合に気づき動けると良いのではないかと思った。時間に多少の前後はあったが最後まであまりドタバタすることがなかったのでよかったと思う。

2）児童感想文

学年	感想
4	しおりとフォトスタンドのまえに、べんきょうやクイズができてたのしかった。先生たちがいたので安心しました。
4	葉肉をとるとがちょっとやぶれたりしてむずかしかった。
4	葉肉をとる作業がとてもむずかしかったです。でもラミネートをしたしおりもいろんなときにつかいたいです。
4	さいしょだからいいやー
4	しおりもスタンドもきれいにできて良かったです。
4	めんどくさかった。むりょうでよかった
4	思ったより作るのがかんたんでした。いろをぬるのとよう肉をはがすのがおもしろかったです。
4	かんたんだった。青色がきれいだった。葉肉をはがすときはずらしでとったほうがとりやすかった。
4	-
5	葉脈に、色をつけるのがとてもたのしかったです。
5	色をぬるときと葉をのりでくっつけるところがたのしかったです。またやりたいです。
5	めっちゃ楽しかった　またやりたい　家でもやりたい
5	葉っぱに色をぬったりはったりするのがたのしかった。はんの先生がわかりやすくせつめいしてくれてよかった
6	楽しかった。葉肉をはがすのが一番楽しかったと思う１時間ぐらいでできると思う。しおりはよく本を読むのでよく使えると思う。

3）活動経過

[年間活動目標　　学びが実感できる授業づくり　　]

6月企画と同じ企画を行うので、6月の時の反省を踏まえて、もっと良い企画にできるようにしていきたいです。また、今回は1年生を主にして企画を行うので、2年生は自分の担当する部分は完璧にしつつ、1年生のこともしっかり見てあげます。6月企画と同じように薬品を使うから子ども達にも先生達にも危険が無いように注意して行う。

運営指導者からのご意見・評価

児童数も、いつもの半分くらいだったので、学生のみなさんとほとんどマンツーマンな形で取り組むことができ、安心して見守っていました。子供たちも楽しそうでした。
ありがとうございました。

（サイン　川端由香里）

○活動を終えて

①準備過程　今回は僕が忙しかったこともあり、準備の日程が多くの日に散らばってしまったがみんなきてくれて良かった。どの準備の日でもみんな協力して行うことができたのでスムーズに進んで、帰る時間がすごい遅くなるということが無かった。

②企画の流れ・企画内容　前回の企画よりもっと早く終わらせなければいけないということで焦っていたが、児童が少なかったので学生同士も協力もあり、企画書の時間通りに終わらせることができた。児童にも楽しかったと言ってもらえたので良かった。

③学生の活動　前回の課題としてあった片付けが遅いという所は学生が率先して動いてくれたからすぐに終わらせることができて解決した。企画中は学生が前回をやって慣れているせいか少しダラけてしまった部分もあるのが残念だった。

④テーマに対する指導の工夫　今回も前回と同じように、葉脈が水酸化ナトリウムでないと溶けないということを理解してほしかった。そこのパワポ担当と一緒に葉脈、葉肉についてよく調べた。今回はワークシートは使わなかったが、たぶんわかってくれた。

⑤目標達成度　前回の反省を生かして児童に対しての指示の順番を間違えなかった。1年生主体だから少し不安だったが、前回も行った企画ということもあり、流れはひと通りスムーズに進められていた。目標は達成されたと感じた。

⑥総合評価　児童達はみんな楽しかったと言ってくれたから良かった。だが学生の明るさや楽しさが少なかったように感じた。学生も楽しまなければ児童も楽しくなってくれないと思うので、次回からは学生も児童もみんなで楽しく行うと思う。

教員からの意見・評価

さすが、2年生、3年生は、じょうずに説明できていました。
後片づけが、リーダーの指示でよくできていました。（勝川）
タイマーがあると時間管理がじょうずにできるので用意したい。
子どもたちに積極的にはたらきかけていた（ほめる）人が多くよかった。

（２）和紙照明

A. 北城小学校 6 月 11 日

1）取材報告（報告者：鈴木、矢野）

1．企画概要

日時：6 月 12 日（土）9 時半～11 時半

2．参加者

小学 4～6 年生 34 名、大学生 20 名

大学教員 1 名、小学校関係者 1 名、運営指導者 2 名、学校教育課 1 名、観覧保護者 4 名

3．活動報告

3－1．活動の様子

・学生の様子

開始前から 2 年生による話しかけと共に、1 年生も児童ときちんとコミュニケーションが取れていた。今回は学生も大人数になったため少し窮屈に感じたが、隅々まで児童の面倒を見ることができた。

・児童の様子

休憩時間になっても作業をするほど集中している子が多く、最初の手順となる枠組み作りで、教えてもらった工程を児童同士で協力し合う場面が見られた。また去年の制作時と比較すると、個性あふれる装飾があちこちで見られた。

3－2．企画の内容

〇企画や指導に見られた工夫点

・全体説明する際に注意点や製作のポイントとなる点を明らかにしていたことが良かった。

・枠組み説明で次の作業へ移る前に、児童への疑問を問いかけ考えさせる機会があった。

・全体での使用する用具の確認は、グループで声をかけ児童に確認させていた。

〇改善点

・準備の段階の備品の不足と荷物の場所を把握できていなかった。

・役割分担の人数に偏りがあったため、準備に遅れがあった。

・時間管理を個々できちんとすべきだった。

・テーブル上の道具管理は、怪我や汚れを防ぐために大切。

2）児童感想文

学年	感想
4	きれいだった。
4	今日は、いろいろやれて楽しかったです。7 月 2 日のもやってみたいです。
4	はじめてだったけどなかなかよくできたので楽しかったです。お兄さんおねえさんたちのおかげだなと思いました。
4	手がベトベトになったことや花紙をはったところなどがとても楽しかったです。

4	白いわしをちぎってはるのがたのしかった。
4	上手にできてたのしかった。またやってみたいな。
4	すごかった！！
4	切るところとかは、とってもむずかしかったけど、きれいで楽しかったです。木をくみたてるところが、1番楽しかったです。
4	いろいろ工夫して、人がとくちょうのちがうやつができた。
4	和紙をはるのがむずかしかったです。7/2 のも参加したいです。
4	作るのが、はじめてだったので、とてもたのしかったです！ありがとうございました！
5	でんきがきれいだった。楽しかった～。(笑)
5	きれいにできてよかった　楽しかった
5	楽しかった。まさのボールペンの消すところがきたない。
5	楽しかった。もういっかい作りたい。まさがいろいろ失敗していた。まさやのボールペンの消すところがきたない！
5	楽しい～～～
5	紙をぐちゃぐちゃにするのが楽しかったです。作って赤やみどりや青やむらさきに光ってきれいでした。うまくできてよかったです。またやりたいです。
5	昔の人が使っていた和紙照明はきれいだったので、昔の人はすごいと思いました。和紙照明を持ち帰れるから、いい記念になりました。
5	和紙をはるとき、和紙と和紙をくっつけるとき、大変だったけど、デコレーションするときは、どんな風にでっこレーションするのかを考えるのが楽しかったです。
5	わしをはったりデコレーションするのがたのしかった。いろいろおしえてくれたからすぐにわかった。
5	おもしろかったからまたやりたい　たのしかった。
5	かん単だったから、家でもやってみようと思った。
5	今回の和紙照明は、意外と楽しかったです。まさのフリクションの消すところがきたなーい。
5	きれいだった　楽しかった
5	たのしかった。すごかった。
5	和紙照明は和紙をはるときがたいへんだったけど楽しかったです。
5	とてもおもしろかったので、またおうぼしたいです。ありがとうございました。
5	花紙や画用紙をつけるだけで色が変わったり、うつらなかったりするのが楽しかったです。
5	色をつけずにやった方がきれいになた
6	おもしろかった。
6	すごくはやくできた。たのしかった
6	きるのが楽しかった…あ！！
4	むずかった。

3）活動経過

［年間活動目標　学生が実感できる環境づくり］

昨年もおこなった活動であり、2度目となる2年生もいるなかで、新たに加わった1年生、2年生が一人一人自分の役割をしっかり理解し、行動できるようにする。

また、1年生が本番で困らないようにリハ等もこなし、当日堂々とやることができるようにする。

オリジナル性が出てくる企画なので、児童それぞれが思い思いの作品を作れるように声かけができるようにする。

運営指導者からのご意見・評価

児童とのコミニケーションがとれていて楽しく作業している様子が伝わってきました。説明をする時、静かに話を聞く空気を上手くつくっているなと感心しました。今後お世話になります。至らない点もあるかと思いますが、私も勉強させて頂くつもりで務めさせて頂きます。宜しくお願いします。

（サイン　河原　）

○活動を終えて

①準備過程

余裕をもって準備物を用意をしたつもりだったけれど、実際には足りなくなってしまうものもあり、準備不足であったと感じました。

また、準備の段階で行う人、行わない人がいたため、本番の準備のタイミングで動けない人が多くなってしまったなと思いました。

②企画の流れ・企画内容

リハーサル等で企画の流れを一通り全体で確認し、理解してもらってあると思っていたけれど、実際の企画中に時間の把握や、流れの理解ができておらず、スムーズな流れが出来なかった面があったかなと思いました。そのため終了時間等に影響がでてしまったと思います。

③学生の活動

1年生は今回初めての企画であり、不安や心配な点もたくさんあったと思います。また、北城小に行ったことのない学生ばかりで分からない点も多かったです。ただ、一応学生たちはそれぞれ活動をしてくれたのではないかとは思いますが、もっと自分から動けるようになってほしいと思います。

④テーマに対する指導の工夫

今回は和紙照明ということで、小枝で作り、同じ形だけど、それぞれの少しずつの違い、またデコレーションでの児童それぞれのオリジナル性を大切に行いました。ただ、児童によって個人差がうまれてしまったために、十分にデコレーションの時間がとれていない子もいたため、班についている学生が上手く回していけるようになり、児童が楽しんで行えるようにしたいです。

⑤目標達成度

初めて行った人たちにも一人一人責任をもって活動をしてほしいと思っていましたが、まだまだ経験者に頼ればいいやという考えの人たちが多く、自分たちからやらなければいけない事、やれる事を見つけて行動することができておらず、言われてからしか動くことができていないかなと感じました。

⑥総合評価

今回、初めて企画リーダーを行い、リーダーの大変さを実感しました。昨年もやった企画ではあったけれど、メンバー、行う学校が変わると新たにでてくる問題点や、昨年1年かけて私が学んだことを今後1年かけて教えていかなければいけないんだなと感じました。今後に生かしていければいいなと思いました。

教員からの意見・評価

事故もなく、児童全員が作品を完成することができてよかったです。

注意をつけてほしい点は以下の通りです。同じ失敗を繰り返さないように、お願いします。

1. 事前準備の徹底
   - 準備物の徹底
   - 打ち合わせの徹底
2. 立入禁止カードは壁に貼らない。塗料がはがれてしまう。
3. 事前に学校側へ申し出たもの以外、借りない。
4. 自分たちが用意したもの以外使用しない。接着剤の瓶は学校から用意していない。
5. 学生間の呼び方。「先生」で統一。

B. **松原小学校 7 月 2 日**

1）**取材報告**（報告者：春日部・宮崎・鈴木）

1. 企画概要

日時：7 月 2 日（土）9 時半～11 時半

2. 参加者

小学 4～6 年生 18 名、大学生 15 名

大学教員 1 名、小学校関係者 1 名、運営指導者 2 名

3. 活動報告

3－1. 活動の様子

児童は今回の活動では、とても楽しそうに和風照明に取り組んでいました。学生のほうも今回の活動を通じて、どんどん成長しているように見ていて思いました。特に一年生の成長は著しいものがあると思いました。これからの一年生のさらなる飛躍に期待です。

3－2. 企画の内容

活動の改善点としては、まず前での発表の際にスライドの映してある場所と人が被ってしまい、スライドが見にくかったりする場面が多かったのでリハーサルで詰めておくべきだったと思います。次に子どもへの対応も片方にしか相手できておらず、もう片方の子を相手できずにいたのも改善点の一つです。あと作業をしているときに学生が児童と一緒に座るのはあまりよろしくないかなと感じました。今回の場合欠員のところは学生が一緒に作るように指示されていて同じように座りたくなる気持ちもわかるが、先生という立場を忘れずに取り組まなければならない。最後に前に出てしゃべる人の声の声量は人によってばらつきがあるので全員が意識して聞き取りやすい声を出せるように心掛けたほうが良い。

2）児童感想文

学年	感想
4	全部楽しかったけどとくにほね組みを作るところが楽しかったです。
4	友達のライトの色やはりつけ紙がなどがきれい。みんないろいろなくふうをしていた。
4	楽しかったです。またやりたいです。ありがとうございました。
4	おもしろかった（〇〇さん）
4	すごく楽しかったです。またやりたいです。
4	ぼくは図工がとくいではなかったけどこれなら、かんたんだから、わりばしなどで、また作ってみたいです。今日は楽しかったです。
4	たのしかった
4	和紙照明はわりばしでも木でもなんでもできるから家にかえったらもう一こつくりたいです。
4	和紙照明を楽しく作くれてよかった。
4	土曜日チャレンジアップすごく楽しかったです。あとわかりやすく教えてくれてありがとうございました。
5	思ってたより自由な作品がつくれて、よかったです。教えてくれる人もやさしくてよかったです。
5	顔から、げいじゅつさくひんができてよかった。おしゃべりしながらできて楽しかった。
5	たのしかった。いえにかざりたい。きれいだった。
5	前よりも、きれいにつくれてうれしかった。夏のふいんきがでてたし、楽しかった。また、つくりたい。
5	自分オリジナルの和風照明が作れたし、楽しかったです。
5	今日、初めて和風照明を作ってみたけど、とっても楽しかったです。特に和紙を水のりにつけてほんたいにつける時、楽しかったです。
6	いろいろと厳しかったけど楽しかったです。
6	〇〇・〇〇先生がやさしかったからよかったです。 （〇〇さん、また来てね！）
見学者 (3 年生)	ちょっとむずかしかったけど〇〇先生におしえてもらってたのしかったしたすかりました。

3）活動経過

[年間活動目標　学びが実感できる授業づくり]

前回の北城小でやった時には、準備不足や学生たち自身が自分たちの役割をはたすことができず、企画が上手くいきませんでした。材料確認で足りない分を補ったりとやってはならないような事態が起きるハメとなりました。今回の松原の企画では、準備をしっかりと行い、自分たちの役割をしっかりと果たし、充実したものとし、児童にも楽しめる企画となるように努めるようにします。1年生も児童と積極的に話して前回よりもレベルアップできるようにする。

運営指導者からのご意見・評価

- 照明の骨組みが割り箸（去年）から枝に変わったり、セロファンを使ったりしてバージョンアップしたと感じました。
- 子どもたちは特にデコレーションの時、楽しそうでした。
- 作品作りの説明がていねいで、分かりやすくて良かったと思いました。

（サイン　篠崎　）

○活動を終えて

①準備過程

前回の企画で、準備不足がとても目立ちました。パーツ分けにとても時間がかかっているように見えたので、木の枝と紙コップ以外はパーツ分けを行っておきました。準備は早く終わったが、前で実演するのに必要なものが事前に準備できてなくて説明がとまってしまった。

②企画の流れ・企画内容

①の準備過程で述べたように、説明がとまってしまうところがあった。児童もどうすればいいのか分からなくなり、流れが悪くなってしまう。骨組みは企画通り終わりましたが、和紙を貼るのに手間がかかり、のびていってしまいました。時間がかかりそうなら、手伝ってあげるべきだなと思いました。

③学生の活動

前回よりも全体的に児童とコミュニケーションをとる姿が多く見受けられた。しかし、一部の学生はまだコミュニケーションがとれていないように見えました。それに、一部の児童がコミュニケーションをとってもらえない部分があったので、担当班の学生はコミュニケーションを全体にしてほしかった。

④テーマに対する指導の工夫

前回と同様、和紙照明は割り箸で作るのではなく、木の枝で作りました。よりオリジナル性がでるように、学生は手助けだけしてオリジナル性を重視しました。前と作るのも1年だけなので、2年のフォローを近くにおいて、和紙照明を円滑に進めるようにしました。

⑤目標達成度

前回の反省ででた「学生の立場でなく、先生という立場で接すること」「自分の役割をしっかり果たすこと」この2つの反省点を重視しました。先生の立場で接することができていない人が目立ち、伝達遅れで自分の役割を果たせていないようでした。反省はまだいかされていないなと思いました。

⑥総合評価

今回は企画書をギリギリに提出してしまい、本番近くになって色んな所を変更してしまい、学生全体に伝達するのが遅れてしまいました。その為役割を果たせない学生が目立ちました。事前準備の大切さを実感しました。全体的にコミュニケーションがとれだした成長しているので、このまま成長していってほしいです。

教員からの意見・評価

C. **松山小学校 7 月 9 日**

1）**取材報告**（報告者：成瀬）

1. 企画概要

日時：7 月 9 日（土）9 時半～11 時半

2. 参加者

小学 4～6 年生 30 名、大学生 15 名

大学教員 1 名、小学校関係者 2 名、運営指導者 1 名、観覧保護者 3 名

3. 活動報告

3－1. 活動の様子

どのようにしようか困っている子に対して、きちんとアドバイスしていたり、質問にもしっかりと答えていた。子どもがなにか言ったときにそれを無視せず、しっかりと拾っていたのがとてもよかった。なにより、ケガなく子どもたちがとても楽しそうに作業できていた。

3－2. 企画の内容

工夫点…鑑賞の際の和風照明用の段ボールがとてもよかった。説明する際に言葉だけでなく、実際にやって見せていたのが良かった。画用紙や花紙といった、光の通しやすさが違う紙を用意していた。

改善点…木で和風照明の型を作る際に二人一組でやるはずだが、すべて一人で作ってしまう子がいた。「〇分まで製作してください。」と言っていたのは良かったが、「残り何分です。」がなかったので焦る子どもが多かった。作業の終わった子が遊んでしまっていたので、指示や話をするなどして放置しないように。説明を始めるときは子どもたちが集まりきってから開始する。

3－3. 活動写真

2）**児童感想文**

学年	感想
4	わたしが今日一番楽しかったことは、和風照明をダンボールの中で照らしたことです。
4	たのしかった。はるところがたのしかった。てらしたらきれいだった。
4	初めてだったけど、先生の説名が分かりやすくて、楽しかったです。
4	わふうしょうめいは、むずかしかった。家にかえってつくりなおしたい。

4	とても楽しくておもしろかったまた今度もやりたい
4	きょうは、とてもたのしかったです。中部大学の人たちに来てもらってよかったです。
4	今日の和風しょうめいはいろいろな、色の花紙で作れていいさくひんができたと思います。
4	初めてやってドキドキしたけど、どんどん楽しくなってきてキレイな作品ができました。ありがとうございました。
4	かみをはるのがむずかしくて、あながあいたりしたけれどとても楽しかったです。
4	今日は和風照明でたくさんくふうができて楽しかったです。身近なものでできて楽しかったです。
5	今日は、すごく楽しかったです。自分のオリジナルの和風しょうめいができてよかったです。ライトをつけて見た時、すごくきれいでした。ありがとうございました。
5	始めて、つくったのでむずかしかったです。家でも作りたいです。
5	和風照明ができて良かったです。最初ねむかったけどねむいのがなくなってしまいました！きれいにできたので、へやにかざりたいです。
5	和風照明を作っていて、すごくたのしかった。もっとちがうものをつくってみたい
5	すごく楽しかったです。完成してみんなでかんしょうしたとき、すごくかんどうしました。自分の部屋にかざろうと思います。
5	とてもたのしかったまたやりたいよー。ありがとうございました。
5	メガレア物が作れてよかったです。
5	今日、はじめて土曜チャレンジをやって楽しかった。
5	楽しかった。先生が面白かった。これを家で作ってみたいと思った。
5	とても楽しかった。またやってみたいでーす
5	はくいの人たちがやさしくてうまく作れました。お話もとてもたのしかったです。ざいりょうに木をつかったのでびっくりしました。つくるのは、むずかしかったけどとても楽しかったです。ありがとうございました。
5	いい体験ができました。楽しかったです。
5	たのしかったでーす！また、10 月に来たいっす！
6	がんばってよかった。次もやりたい。
6	思ったようにできなかったけれどとてもたのしかったのでまたやりたいです。
6	和風照明は思ったより出きなかったけどいろんな色をくみ合わせたりして、楽しかった。
6	花火とかをはるのが楽しかったです。でもつかれたーと思いました。
6	今日はとてもたのしかったし LED ライトをてらしたときとてもきれいでよかった今日はきてよかった
6	和風照明では、あかりで色が出ることができてたのしかったです。
6	てきとうにつくったらいいかんじになった。とても楽しかった。家でもっとつくりたいと思った。

3）活動経過

［年間活動目標　　学びが実感できる授業づくり　　］

企画が初となる松山小学校で大勢の児童が参加してくれる事に感謝し期待通りの楽しい時間にしていきたい。同企画を北條小学校で行った時での道具の不備が起こらない様、念入りの準備をして挑みます。そして全員が満足できる作品作りのサポートをし、児童の[illegible]の妨げにならない補助や説明ができたらと思います。今回は1年生主体の企画です。2年生が見守りながら活動を達成感のあるものにさせます。

運営指導者からのご意見・評価

時間通りに進行できて良かったと思う。
子どもに説明や指示を行う時に、作業時間を伝えたことで、目標を持つことが具体的に理解ができて、スムーズに作品作りを集中してできたと思います。それぞれの班の担当者が雰囲気を盛り上げていた。

（サイン　　）

○活動を終えて

①準備過程 タクシーの手配が遅くなってしまい準備に遅れが生じた。会場にあると思っていたプロジェクターのスクリーンが無かったため、黒板に映して代わりにした。良かった事は使用材料や道具に予備を持ってきていて正解だった。準備中にライトが光っていても当日点灯しなかったハプニングに備えておいて良かった。

②企画の流れ・企画内容 企画の流れとしては、説明→実演→作業という流れが基本で、割りばしとつ[illegible]雰囲気のあるものを製作しました。企画の説明では単調な内容にならないよう[illegible]説明の仕方がうまく伝わらない事があった。児童に対する説明の機会を取り入れ、企画に対する興味を引き出す事も大切だと感じた。時間通りに終われ[illegible]

③学生の活動 学生の活動では、わんぱくでやんちゃという子もいたりでお兄さんお姉さんと言ってしまう人がいた。作業中に企画とかかわりのある内容を話すというのは難しいが教師として正しいふるまいを[illegible]する必要がもう少しあると思う。しかし休憩の間も仲良く安全に触れ合っていた。作業する児童への配慮も考えられていてさらに良かったと思う。

④テーマに対する指導の工夫 割りばしとは[illegible]い、木の枝を使う事によって雰囲気のあるものが作られる事。和紙、[illegible]、画用紙による色の流れ方をはっきりと学生が説明できていた。工夫点として良かった事はこんがらがって協力しながら製作する過程を説明していた。児童を通して分かりやすい[illegible]合わせて[illegible]取り組む所が見られた。

⑤目標達成度 前回の反省を生かし、時間を意識して活動に取り組んだ。その結果、学生の意識の中だけではなく、児童にも時間をきちんと知らせていた。企画自体も1年生が主体となって、児童への説明や配慮が行き届いていたと思う。

⑥総合評価 1人1人が作品を完成させ、持って帰るのを楽しみにしているという児童の姿が見られた。準備の遅れが生じてしまったために細かな反省点がたくさん見つかった。多くの[illegible]をおかけしましたが、企画に何とか間に合わせる事ができたのは本当に感謝しています。

教員からの意見・評価

2年、3年生の声がよく出ていました。
雨のため、スタートが若干おそくなりましたが手際よく準備できました。
時間を計測するタイマーがあるとよいと思いました。
子ども達にもよく声をかけていました。特に「ほめる」ことがよくできていたと思います。

（３）一瞬で絵が変わる！マジックキューブ

A. 勝川小学校 10 月 22 日

1）取材報告（報告者：永江、熊谷、山田、山田）

1．企画概要

日時：10 月 22 日（土）9 時半～11 時 20 分

2．参加者

小学生 4～5 年生 11 名、大学生 13 名

大学教員 1 名、運営指導者 1 名、観覧保護者　1 名

3．活動報告

3－1．活動の様子

学生が行う作業はみんなしっかりこなしており、児童に行ってもらう作業は児童にやらせて、その間学生は見守っており、役目のメリハリがきちんとしていました。でも、児童が困っていると学生一人一人が児童に的確なアドバイスを送ったり、手伝ったりと楽しい活動となるように工夫していた。児童達の楽しそうな姿が印象的でした。

3－2．企画の内容

〇よかった点

・役割のメリハリがきちんとしていた。
・児童と同じ目線で対応していた。
・時間がずれていたにもかかわらず、柔軟に対応できていた。
・機転のきいた行動ができていた。

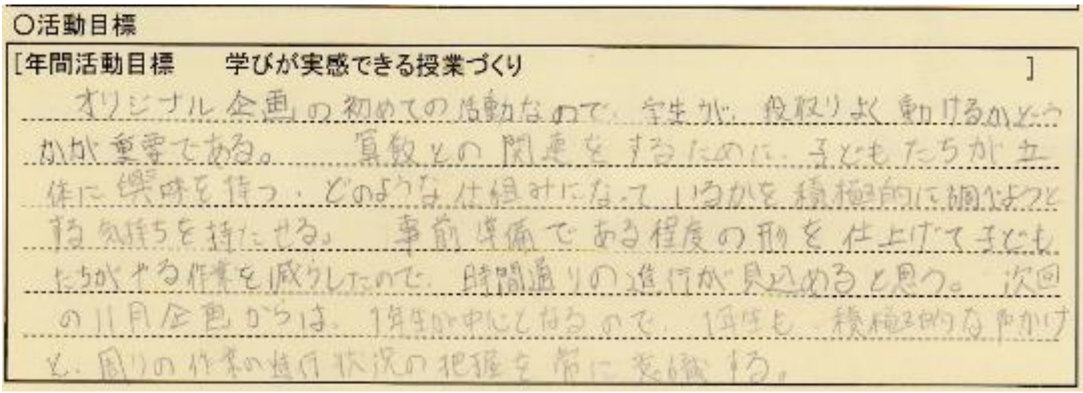
〇改善点

・パワポの操作ができていなかった→当日できるように！
・児童が見えないと言っていた。
・パワポの文字が小さいところがあった。
・「白衣の人」ではなく「白衣の先生」
・タイマーが鳴っているのにすぐに始まってなかった→あらかじめ準備しておく！
・タイマーが鳴ってからの学生の声かけが遅い。
・説明しながら背中をみせないこと。
・「今から 20 分」だけではなく「〇時〇〇まで」もあるとよい。
・前で実演しているときに見にくそうにしている児童がいた。
・小学生からタイマーが見にくいため、時計の時間を見て作業させたい。
・保護者のお迎えの連絡等は、あいさつの前にしておく。
・机の元の位置がわからなくなっていた→テープをはっておく。
・勝川小においてあるはずの受付のカードとぞうきんがなかった。

2）児童感想文

学年	感想
4	振ると変わるというのが楽しかった。
4	時間がなかったけれどいい作品ができた。
4	家でも難しいけど作ってみたい。妹に見せてあげる。
4	難しくて作品はあまりできなかったけど、楽しくできて嬉しかった。
4	簡単にできた。
4	難しかったけど、面白かった。
4	思っていたより上手にできた。白衣の人たちの説明が分かりやすかった。
5	飾りつけが楽しかった。３回目の参加で、次の企画も面白そうなのでやってみたい。
6	楽しかったが時間が足りなかった。トムキューブとググッたら（ネットで調べたら）のっているかな？
5	飾りつけをするのが楽しかった。白衣の人が分かりやすく教えてくれて良かった。
6	マジックキューブは、ひもを通すのがすごく大事で、１つの立方体を作るのに牛乳パックの１きれが３枚も必要だと分かった。またやってみたい。

3）活動経過


○活動目標

[年間活動目標　　学びが実感できる授業づくり　　]

オリジナル企画の初めての活動なので、学生が、段取りよく動けるかどうかが重要である。算数との関連をするために、子どもたちが立体に興味を持つ・どのような仕組みになっているかを積極的に調べようとする気持ちを持たせる。事前準備である程度の形を仕上げて子どもたちがやる作業を減らしたので、時間通りの進行が見込めると思う。次回の11月企画からは、1年生が中心となるので、1年生も積極的な声かけと、周りの作業の進行状況の把握を常に意識する。

活動報告書

運営指導者からのご意見・評価

児童数より学生さんの数の方が多かったので、作業は至れり尽くせりで子供たちは不安なく作品をしあげることができたと思います。タイマーを使ったのは良かったですね。おつかれ様でした。

（サイン 川端由香里

○活動を終えて

①準備過程

バットの中身が人数追加分の対応ができているものとできていない物があり、企画が始まってから取りに来ていた。誘導を終えた学生は、児童とコミュニケーションをとって企画に入りやすいような雰囲気作りができていたのでよかった。

②企画の流れ・企画内容

企画が始まってから、材料確認に時間がかかったり、説明の時間を考えずに企画書を制作してしまっていたので、休憩前までに大幅に時間が押してしまっていた。また、早く活動が終わってしまった子への対応や、タイマーの活用の仕方が上手くできておらず、子どもの活動にメリハリがつかなかった。

③学生の活動

時間の変更にも臨機応変な対応ができていた点は良かった。しかし、前に出て説明する人が言葉足りずで、作業に入ってしまうことが何度かあり、児童が混乱していた。班の学生が児童のデコレーションの手伝いで1人もいない時があったので注意したい。

④テーマに対する指導の工夫

今回の企画では、算数、立体に興味をもたせる指導ができるように、立方体を3つの牛乳パックの帯から作った。3つの帯が組みあわさって立方体を作るには、どのように組立てればいいか、積極的になる児童の姿が印象的だった。また、振ると形が変わる意外性も興味をひき立てた。

⑤目標達成度

子どもの興味をひく企画で、立体を楽しく学べたと思うが、事前準備を重ねたにも関わらず、時間通りに進行ができなかったというのが一番の反省点である。その分、学生が役割良く動くことでカバーした面が大きいので、企画の完成度としては50%ほどだと考えられる。

⑥総合評価

オリジナル企画として初めてではあったが、児童が楽しみながら学べる企画であることは分かった。時間配分と学生の説明の明確化を考え直す必要があり、削ることができる部分はもっと簡単に指導ができるようにしたい。11月企画では、時間通りの活動を徹底できるかが重要である。

教員からの意見・評価

企画の動きはとても良かったですが、説明の間延びや活動時間の短さなど、時間配分に課題が見えました。11・12月企画では、改善を期待したいと思います。

（時岡[illegible]）

B. **松山小学校 11 月 26 日**

1）**取材報告**（報告者：池林、深見）

1. 企画概要

日時：11 月 26 日（土）9 時半～11 時半

2. 参加者

小学 4～6 年生 18 名、大学 1・2 年生 9 名

大学教員 1 名、小学校関係者 1 名、教育委員会 1 名、運営指導者 1 名

3. 活動報告

3－1. 活動の様子

企画が始まる前から良い雰囲気で、学校に来てから帰るまで、子どもたちは楽しそうにしていた。学生も今年度のはじめと比べて子どもに慣れてきたのか、積極的に子どもとかかわっていた。説明にも様々な工夫がこなされていた。リーダーが周りをよく見ていて、円滑に進めることができていたように思う。

3－2. 企画の内容

四角形の輪を三つつなげて立方体を四つ作り、それらを組み合わせて紐でつなぎ、土台に固定し、折り紙やマスキングテープ、型抜きしてある飾り、ポスカなどを用いてデコレーションを行う。子どもたちは特にデコレーションを楽しそうに行っていた。立方体を作る作業で、四角形の輪を組み合わせることが難しくて、スムーズに進めている子との差が目立った。紐を通す説明のように、この作業も大きな模型を作っておくと分かりやすいのではなかろうか。

3－3. 活動写真

2）**児童感想文**

学年	感想
4	わたしは今日、いっしゅんで変わるマジックキューブを作って思ったことは、みんなそれぞれいろとりどりできれいだと思いました。
4	欠席
4	今日は 2 回目です。でも、前も楽しかったけど、今日はもう少し楽しい感

	じになって、とってもよかったです。また当たったら、次も行ってみたいです。ちゅとらもとってもかわいくて、さくひんにかきました。とっても楽しかったです。
4	むずかしかったけど楽しかったです。六年生でならうので覚えていたいと思います。
4	きょう、キューブをやっていろんな絵がかけて、先生におしえてもらってたのしかったです。
4	むずかしかったけど作り終わったら楽しかった。
4	ぼくは今日、土曜チャレンジアップ教室に参加してとても・・・たのしかった！！
4	今日は、マジックキューブを作ってとてもたのしかったです。
4	いろんなことがわかった。楽しかった。
4	むずかしかったどけ楽しかったです。次の万華鏡も作ってみたいと思いました。
4	欠席
4	分かりやすくせつめいしてくれたり。楽しかった！
4	今日は、やさしく、ていねいに教えてくれてとてもうれしかったです。デコレーションが楽しかったです。たんとうの人がそれぞれ教えてくれたのでほっとしました！！ありがとぉー
4	少し時間が少なくて大変だったけど最後のかざりつけが楽しかったです。
5	初めてさんかしてとても楽しかったです。またおうぼしておもしろいおもちゃを作りたいです！
5	たのしかった。つぎもあてる。ほいまたやろう！いえで。
5	今日は、楽しい経験をさせていただき、まことにありがとうございます。次回もぜひともおうぼさせていただきます。また会えることを楽しみにしております。ありがとうございました。
6	たのしかったけど、絵はすごくしっぱいした。いえでもマジックキューブをやってみたいと思いました。次回の土ようチャレンジもやりたいです。
6	今日、マジックキューブというものをやってとてもたのしかったしおもしろかったですまたこんどもチャレンジアップ教しつをやりたいです。
6	とてもむずかしかった。

3）活動経過

[年間活動目標　　学びが実感できる授業づくり　　]

オリジナル企画の2回目で前回の反省点をふまえて、勝川小学校よりも段取りよく進めていくことが重要である。また、前回よりも学生と児童の人数比が学生のほうが少ないので説明をしっかりして児童が自ら理解として作業を進めていくことも、時間をうまく進めていくために重要になってくる。児童ひとりひとりが立体に興味をもち、どのような仕組みになっているか、積極的に調べようとする気持ちを持たせる。しっかりとした声かけ、メリハリをつけて、自分の班だけでなく全体を把握し、学生全体で進めていくよう意識する

運営指導者からのご意見・評価

マジックキューブは、ひもを通してテープで止めたり結んだりという作業が難しいと思われたが、各班の学生が1人1人に対してきめ細かく対応し、しっかりとサポートが出来ていたと思います。ストップウォッチの音に子ども達も反応するようになり、音が鳴ったら作業を止めて話を聞くこと、又時間内に進めようとする意識が目覚えて集中して取り組めた。全体的にスムーズでした。楽しい企画でした。（サイン　山岡　）

○活動を終えて

①準備過程

前回できていなかった、バットの中身はしっかりそろえることができてよかった。準備も9時前には終えることができ、落ちついて児童をむかえることができた。児童たちはとても元気で、コミュニケーションもとれていて、良い雰囲気で企画に入ることができた。

②企画の流れ・企画内容

企画が始まり、思っていたより時間通りに進めることができたが、児童の作業が時間内に終われていない所が多くあったように感じた。時間を気にするようにタイマーも前回よりは活用でき、メリハリをつけることができた。

③学生の活動

時間通りに進められるよう、児童とひとりひとり、しっかりサポートすることができてよかった。しかし、パワーポイントを変えることを忘れてしまったり、説明がうまく伝わっていない部分があったので、次回からは注意したい。児童とのコミュニケーションがとれていた点はとてもよかった。

④テーマに対する指導の工夫

今回の企画では、算数の立体について興味をもたせるよう指導をはかった。立方体を3つの牛乳パックの帯から作った。3つの帯からどのように立体を作るのか、積極的に考えることができた。また振ると絵が変わることにも興味をもたせることができた。

⑤目標達成度

絵が変わるという変化が子どもの興味をひくことができたと思うが、立体について考える時間が少なかったように感じた。時間通りに進行することができ、前回企画の一番の反省点を改善できたことはとてもよかった。

⑥総合評価

オリジナル企画2回目で、前回よりスムーズに進めることができた。学生と児童とのコミュニケーションもとれており、とてもよかったと思う。時間内におさめることはできたが、時間の区切りが児童の進行と合っていない部分があったので12月企画では改善が必要だ。

教員からの意見・評価

10：30～12：00まで参観した。
作業のまとめ方、デコレーションへの助言などの場面では、多くの学生が適切に助言していた。子どもたちも楽しい様子で、この活動がイベントとして受け入れられてきたように思われる。山岡さんのコメントも直接学生たちにきかせることができ、よかったと思う。　吉田直子

C. **北城小学校 12 月 10 日**

1）**取材報告**（報告者：髙島）

1. 企画概要

日時：12 月 10 日（土）9 時半～11 時半

2. 参加者

小学 4～6 年生 16 名、大学 1・2 年生１２名

大学教員 1 名、教育委員会 1 名、運営指導者 1 名、観覧保護者 1 名 3. 活動報告

3－1. 活動の様子

・前に立った人は騒がしくても話し続けてしまっていることが多かった。

→班についてる人の子どもへの対応がよかった。

・子どもの集中力がすごかった。

・子どもが困っていたときのサポートがよかった。

3－2. 企画の内容

・作り方の説明の時、大きいものを用意して見やすかった。

・鎖から立方体にする際、子どもに考える時間を作っていてとても良いと思った。

・紐で繋ぐところの説明が難しかった。

・子どもに聞く態度をとらせる呼びかけがよかった。

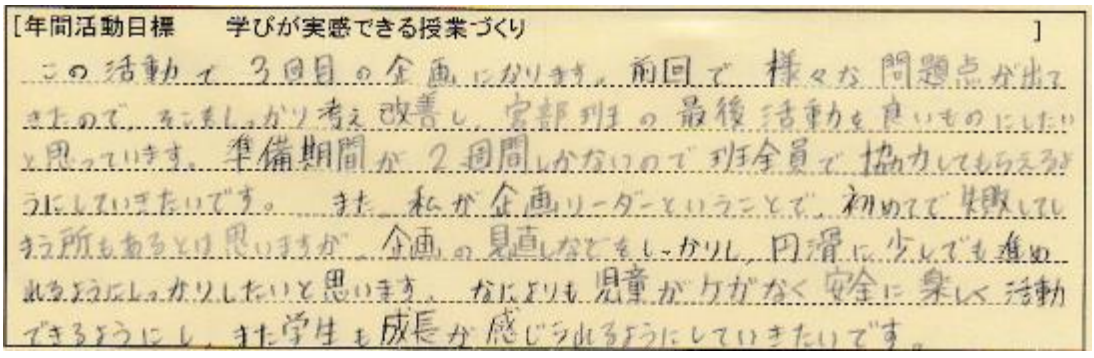
・危ないものが少なく安全に企画が行われていた。しかし、途中はさみを使うことがあり、危ない使い方をしている子どもがいたときに注意をせず笑っていた。

・絵を描く時間をもう少し長めにとった方がよかった

2）児童感想文

学年	感想
4	もっとつくりたかった。いがいとかんたんだった。
4	大学生がみんなやさしかった。つくるのがたのしかった。
4	形がしかくだった。
4	また面白そうなのがあったらまた来ようと思いました。(4回目を)
4	アイル・ビー・バック
4	立方体のことも、まなびながらまなべて、たのしかったです。次もまたこれたらいいです。
4	作るのは難しかったけど楽しかった。
4	とってもたのしかったです！マスキングテープがあって、かざりやすかった☆次回も来ます。メリークリスマスとハッピーニューイヤーです。
4	かざりつけのじかんをながくしたらもっといい。きかくはとてもいい。
5	やさしくおしえてくれて、楽しく、うれしかった。これからも、土曜チャレンジアップをやろうと思った。
5	とってもすてきなキューブができてうれしかったです。遊んでいても楽しかったです。今日は、とってもさいこうな１日でした。
5	楽しかった。またこんどもやりたいと思った。ふっただけで絵がらがかわったのでびっくりした。
5	もう少しほかの色がほしい。デコの時間をふやしてほしい。
5	欠席
5	キューブを４つつくるのがいがいに、むずかしかったです。
5	作り方が意外だった。
4	始めてこうゆうのを使ったので立方体ということを知れました。

3）活動経過


[年間活動目標　学びが実感できる授業づくり　]
この活動で３回目の企画になります。前回で様々な問題点が出てきたので、そこをしっかり考え改善し、学部別の最後活動を良いものにしたいと思っています。準備期間が２週間しかないので班全員で協力してもらえるようにしていきたいです。また私が企画リーダーということで、初めてで失敗してしまう所もあるとは思いますが、企画の見直しなどをしっかりし、円滑に少しでも進められるようにしっかりしたいと思います。なによりも児童がケガなく安全に楽しく活動できるようにし、また学生も成長が感じられるようにしていきたいです。

運営指導者からのご意見・評価

今回も小学生が取り組みやすい内容で、子供達が集中している姿が印象的でした。説明の際には、見本を拡大化する事でより解りやすくする工夫が感じられて良かったです。少し難しい工程もありましたが、すぐに仕上がってしまうものより、子供なりに試行錯誤しながらやっていく事も必要だと思います。来年も期待しています。（サイン 河原）

○活動を終えて

①準備過程

事前にパットの中をしっかり確認しどう準備するか全員が把握していたためスムーズに行うことができた。また、新聞紙が足りないというアクシデントがあったが、班編成を変更しすぐに対処できて良かった。学生も子どもたちとコミュニケーションをしっかり取っていて楽しい感じが伝わってきたと思う。

②企画の流れ・企画内容

時間配分は、胴体を土台につけるまでの工程に長く時間を取るようにしました。その結果、児童がゆっくりと落ち着いて作成に集中することができたと思った。特に大きな変更もなく計画していた通りに流れていけたので良かったと思う。

③学生の活動

児童が作業に困っている時などに、素早く介入し手助けすることができていたため、スムーズに企画を進めることができていた。1年生の前での説明もより具体的で見本を使うなどの児童が理解しやすいように工夫が見られ成長が感じられた。

④テーマに対する指導の工夫

今回の企画は、胴体を組み立てたりヒモを複数の箇所に取りつけたりと、児童にとって難しいものであることを1・2回目で知ったので、説明の見本を拡大させたり、ヒモの取りつけの作業工程のプリントを作成したりと、時間内に児童が作業を終われるよう工夫した。

⑤目標達成度

時間通りに進められ、児童に分かりやすく説明し、学生の介入のタイミングもとても良かったと思う。振ることで絵が変わることをデコレーションの時間が少し足りなかったので興味を引かせることができていなかったと思った。もし最初の説明時に見本を見せてあげれば良かった。

⑥総合評価

3回目のオリジナル企画で1・2回目の改善点を活かし上手くできたと思った。一年生のレベルも最初の頃と比べると格段に上がっておりスムーズに企画が進められました。また、12月企画は1年生が中心となり進めていかなければいけなかったため不安もありましたが、無事に終わることができ安心しました。

教員からの意見・評価

危険を伴う作業もなく、安心して見ていられる一方で、子どもたちが楽しく取り組める良い企画であったと思います。
二つ、三つの工程を一度に説明すると、ついてこられなくなる場合があるので、もう少し細かく説明のステップを分けた方が良かったかも、と思いました。

（4）ピンホールカメラを作ろう！

A. 松山小学校 10 月 22 日

1）取材報告

1. 企画概要

日時：10 月 22 日（土）9 時半～11 時半

2. 参加者

小学 4～6 年生 15 名、大学 1・2 年生 14 名、大学教員 1 名、運営指導者 1 名

3. 活動報告

3－1. 活動の様子

・活動内容が素晴らしく良かった。とにかくわかりやすく班の雰囲気も良かった。

・子どもが主体的に作成できていた。

・子どもとの話もその子どもに合わせてできていた。

3－2. 企画の内容

・全体的に 3 分前行動ができていて、早めの行動ができていた。

・休憩おわり子どもの集中力がなくなってしまっていて話があまり聞けていなかった。

・制作しているとき、机に先生が誰もいなくなってしまうときがあった。

・制作の終了時間を事前に伝えていて良かった。

・班で決めている合図を良いタイミングで使えていた。

2）児童感想文

学年	感想
4	ピンホールカメラを作って思ったことは光をしようしているものはたくさんあるということです。
4	作るのがたのしかったです。三年生のとき作ったけど、なくしてしまったので次は大事にします。
4	おもしろかったです〇
4	作ったりするのはむずかしかったけど色をぬったり見たりするのは、たのしかった。またこんどのもやりたいなと思いました。教えてもらったりして、とてもやさしてよかったです。
4	今日はいろんな先生にたすけてもらって、わからないところもあったけど、２かいめのほうがたのしかったです。
4	楽しかった。すげぇーと思った。むずかしかった。次回も行こうと思った。次回が楽しみ。
4	楽しかった。すげぇーと思った。むずかしかった。次回も行こうと思う次回が楽しみ！！
4	こんなふうにかんたんにできるとは思わなかった。
4	みんながやさしくおしえてくれて、たのしかった。
4	楽かった。おもしろかった。まじめになってもらう。
5	もっと時間をほしかった。
5	3 年のときに同じようなことをやったけど少しわすれていたのでふくしゅうみたいになりました。
5	おもしろかった。カツラがえがみたいだった

6	楽しかった。かんたんだった。

3）活動経過

[年間活動目標　学びが実感できる授業づくり]

学生…初めてのオリジナル企画なので、準備・進行がうまくいかない点が出てくると考えられる。そのため、時前にリハーサルなどの段階で改善点を挙げて当日企画を成功させる。又、当日急きょ発生する問題点も予想されるため、学生全体で情報を共有し、臨機応変な対応をする。そして、出てきた問題を次の企画に活かせるような反省までを行う。
児童…中学校の理科の光の屈折にもつながる企画なので、小学校時から、屈折に対する基礎を実践を通して学ぶ。

運営指導者からのご意見・評価

学生の役割分担がきちんとされていて、その役割を果たせていたと思います。
学生同志の連絡・伝達がすみやかに行えると、よりよくなりました。
皆、子どもを引きつける魅力があり、和やかな雰囲気で企画が進みました。
今日は地域の行事と重なってしまった為、参加者が少かったですが、その分、細やかな子どもへの対応ができ良かった。学生達の責任感も◎!!
（サイン　[印]　）

○活動を終えて

①準備過程

ピンホールカメラの型を作製する際に正確に作図をできていなかった。そのため、大きい方と小さい方の筒の大きさの差を次回はより大きくすることで誤差が生じても良い環境を作りたい。又遅刻してくる学生がいた。

②企画の流れ・企画内容

企画進行上の注意事項の説明をし、鉛筆を使った屈折の実験・造花を使った実験を通して「屈折」の概念を教え、作り方の説明・製作。休憩をはさみ、続きの作り方の説明・製作をし、観賞の後、原理の説明、屈折のクイズを行った。

③学生の活動

- 会場設営（受付、教室、禁止区域）
- 演示実験や説明（作り方など）
- 作品づくりの補助
- 子どもの見送り
- 片付け、忘れものチェック
- 反省会（今回はLINEで行った）

④テーマに対する指導の工夫

- 演示実験や作品製作の前に必ず1人にだけ見せ、リアクションを取ることで子どもの興味をこの上なく引き立てた。
- 今回は常に作業をさせ、座学は原理の説明を端的に行うだけにすることで企画全体を通して集中して行えた。

⑤目標達成度

荷物搬入準備・後片づけで抜けていた部分もあったが、企画全体としては成功した。それは、リハーサルの段階で改善点をグループ内で話し合ってから企画に望めたことが大きな要因だと思う。児童もすんなり屈折について理解できていて良かった。

⑥総合評価

初回のオリジナル企画で色々と大変だったが、子どもたちの反応もよく時間通りに終わらせることができた。又、裏番組としてクイズを用意しておいたのが良かった。今回の経験と反省を生かして次回以降の企画に取り組みたい。

教員からの意見・評価

今回は、6月に比べて、学生の動きも良く、良かったと思います。
しかし、上靴の忘れ物、姿勢問題と企画外の点で課題がありました。
児童に指摘されるのは問題です。
（味岡ゆい）

B. 勝川小学校 11 月 26 日

1）取材報告

1. 企画概要

日時：11 月 26 日（土）9 時半～11 時半

2. 参加者

小学 4～6 年生 23 名、大学 1・2 年生 14 名

大学教員 1 名、小学校関係者 1 名、教育委員会 1 名、運営指導者 1 名 3. 活動報告

3－1. 活動の様子

・児童と学生が十分にコミュニケーションを取れており、良い雰囲気での活動になっていた。

・子どもの目線に沿って、学生が話をしていてよかった。

・子どもがきて、席についたらすぐに学生が話をしていてよかった。

・子どもへの問いかけが、丁寧で、簡潔で分かりやすかった。

・学生が不測の事態に臨機応変に対応していて、冷静さがあってよかった。

・子どもを静かにさせるときの方法が工夫されていてよかった。

・全体的に元気で明るく、子たちが楽しんで企画に取り組む様子があってよかった。

3－2. 企画の内容

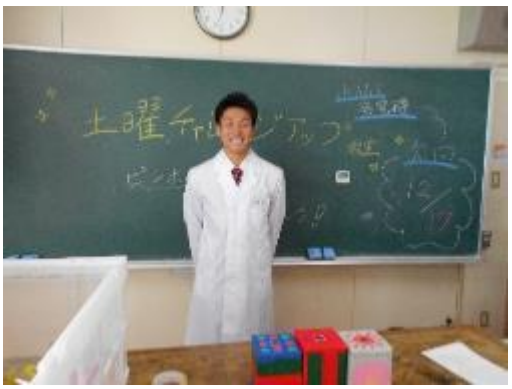
・子どもが教室に誘導されてきたときに座る席に迷い戸惑っていたので、あらかじめ席を決めることや、自由席だとしても学生が即座に対応することが必要。

・ハサミを使う直前に出して、使い終えたらすぐに回収しており、安全配慮に務めている。

・学生が前で発表して、子どもに発言を聞いているときに、その聞き方が、意見を聞いて「ありがとう」など工夫されていて、子どもが発表しやすそうでよかった。

・装飾を行う際に椅子が出たまま立って作業している子どもや、椅子の上に立っている子供がいたため、作業を行うときは椅子をしまい立って作業をするのか、椅子に座って作業するのかのどちらかに統一するべき。

3－3. 活動写真



2）児童感想文

学年	感想
4	絵を書くのがたのしかった。
4	楽しかったあとびっくりしたいろいろたものがみたくなった。
4	ピンホールカメラはさかさまにみえておもしろかったです。
4	たいへんだったけどたのしかった！！
4	前回のはかざりがぜんぜんできてなかったけど、今日はかざりがたくさんできてうれしかったです。
4	えいがのようにうつっていてとてもすごかったです。次回もやってみたいです。
4	楽しかった。
4	カメラがすごかったです。たのしかったから、またきたいです。
4	たのしかった。
4	楽しかったです。時間をもっと長くしてほしい
4	色がきれいで、絵をかいたり、レンズをはってったりしたのがたのしかった。
4	作るのはめんどくさかったけど、みるのはきれいだった。
4	むずかしかった。前に出て説明する人の説明が下手で、よくわからなかった。近くの研究いんさんがやさしく、よくわかった。
4	うつしたものがさかさまになっていたのでびっくりしました。
5	かざりつけが楽しかった。
5	ピンホールカメラ作り楽しかったです。かざりつけで、カラーテープをつけるのがむずかしかったです。
5	欠席
5	すごくたのしかったです。またちがうチャレンジアップにもおうぼしたいです。
5	欠席
5	絵を書くのがたのしかった。
5	欠席
5	大学生がとてもおもしろかったです。
6	楽しかった。2 つくっつけたらふつうに見えたりするのかな？と思った。次当たるといいな。

3）活動経過

[年間活動目標　学びが実感できる授業づくり　]

学生：2回目のオリジナル企画なので、前回の反省を活かして、よりよい企画にするという意識を持って行う。一度経験しているので、素早く丁寧な作業を心がけて、子どもの失敗を最小限に抑えるようにする。また、前に出て話す人は、具体的な説明で子どもに気付きを与えられるように努力する。

子ども：ピンホールカメラ作りや、スライドでの説明を聞いたり見たり、体験したりして、光の屈折を身近に感じる。また、それを生活の中でも気付けるように、光についてのおもしろさに気付く。そして中学校での学習に少しでもつなげるように、興味関心を持つ。

運営指導者からのご意見・評価

実験の時は、くいつきが悪かった子供たちも、作品作りが始まると楽しそうにしていました。デコレーションする時間がたっぷりあったので良かったと思います。子供たちは、あきのじゃくなところがあるので、実験の時は花の色を最初からかくしてクイズ形式にしたらどうかなと思いました。（サイン　[illegible]）

○活動を終えて

①準備過程　前回の企画の時よりも丁寧な作業で、台紙やフィルムを早い段階で準備できていた。しかし、前に出て話したり、説明したりする人は、気持ちの緩みからか、話す内容を直前に読んだり、スライドをそのまま読んだりなど、子どもに分かりやすいようにする工夫が足りなかった。

②企画の流れ・企画内容　光の屈折を用いた実験と作品づくりを行う。鉛筆を使った実験と造花を使った実験を行った後に、ピンホールカメラを作成し、光に興味を持ち、より光を理解し親しむ。また、ピンホールカメラを通して光の屈折について学ぶとともに、どうして逆さに見えるのかという新しい疑問と出会う。

③学生の活動　学生は、光の屈折について子どもたちに理解させようと頑張っていた。また、班の子どもと一緒に考えて作品を作成して、より興味を持たせるように話しかけたり、会話したりしていた。立場的には、友達よりも上で、先生よりも下という、どっちつかずの立場でありながらも、楽しそうに活動していた。

④テーマに対する指導の工夫　3年生の理科の発展した内容を取り扱うことで、全員が一度習っているため興味を持ちやすかった。導入において演示実験を2つ用意することも、興味につながっていたと思う。ピンホールカメラで、何をどのように見ても、逆さに見えることを子どもに体験させ、仕組みを簡単に説明することが工夫であった。

⑤目標達成度　素早く、丁寧な作業はよくできていたと思う。しかし、前回と異なるハプニングが起こると、やはり、焦ってしまい、対処が遅れる傾向にあった。また、前で説明をする人は、全く具体的で分かりやすい説明ができていなかった。子どもは、ピンホールカメラで、光の屈折について興味を持ち、おもしろさに気付いている様子であった。

⑥総合評価　子どもと学生が、一体となって楽しそうに活動している所が良かった。具体的な説明を、子どもとの距離感をつかむことが大きな課題であると感じた。ただ、活動目標への子どもの理想の姿に近い様子の子どもがたくさんいたので、結果として、とても良い企画になっていたと思う。

教員からの意見・評価

当日は9：00～10：00という部分的な場面のみの参観でしたが、夏前の企画の時より、落ちついてスムーズな流れで、感心しました。
また、「子どもたちに納得してもらうように説明する」というあたりが課題のようですが、これからどんどん向上していくと期待しています。
（[illegible]　12/1）

C. **松原小学校 12 月 10 日**

1）**取材報告**（報告者：木村瞭汰）

1. 企画概要

日時：12 月 11 日（土）9 時半～11 時半

2. 参加者

小学 4～6 年生 19 名、大学 1・2 年生 12 名

大学教員 1 名、小学校関係者 1 名、教育委員会 1 名、運営指導者 1 名、観覧保護者 2 名 3. 活動報告

3－1. 活動の様子

・児童と大学生でコミュニケーションがとれていて交流しやすい雰囲気であった。

・大学生の中で机に肘をついており悪い印象を与えかねないと思う。

・大学生は児童の目線に合わせて話をしていて児童の緊張もほぐれていた。

3－2. 企画の内容

・荷物を前もって外に出しておくこと。

・ハサミを管理して必要時に取り出すことは非常に良い。

・手を三回叩いて児童を切り替えさせるのは良い方法だが、周りの学生はそれに頼らずに声掛けもするべき。

・話すペースが全体的に早いので児童が聞き取れるよう、あせらずゆっくり話すこと。

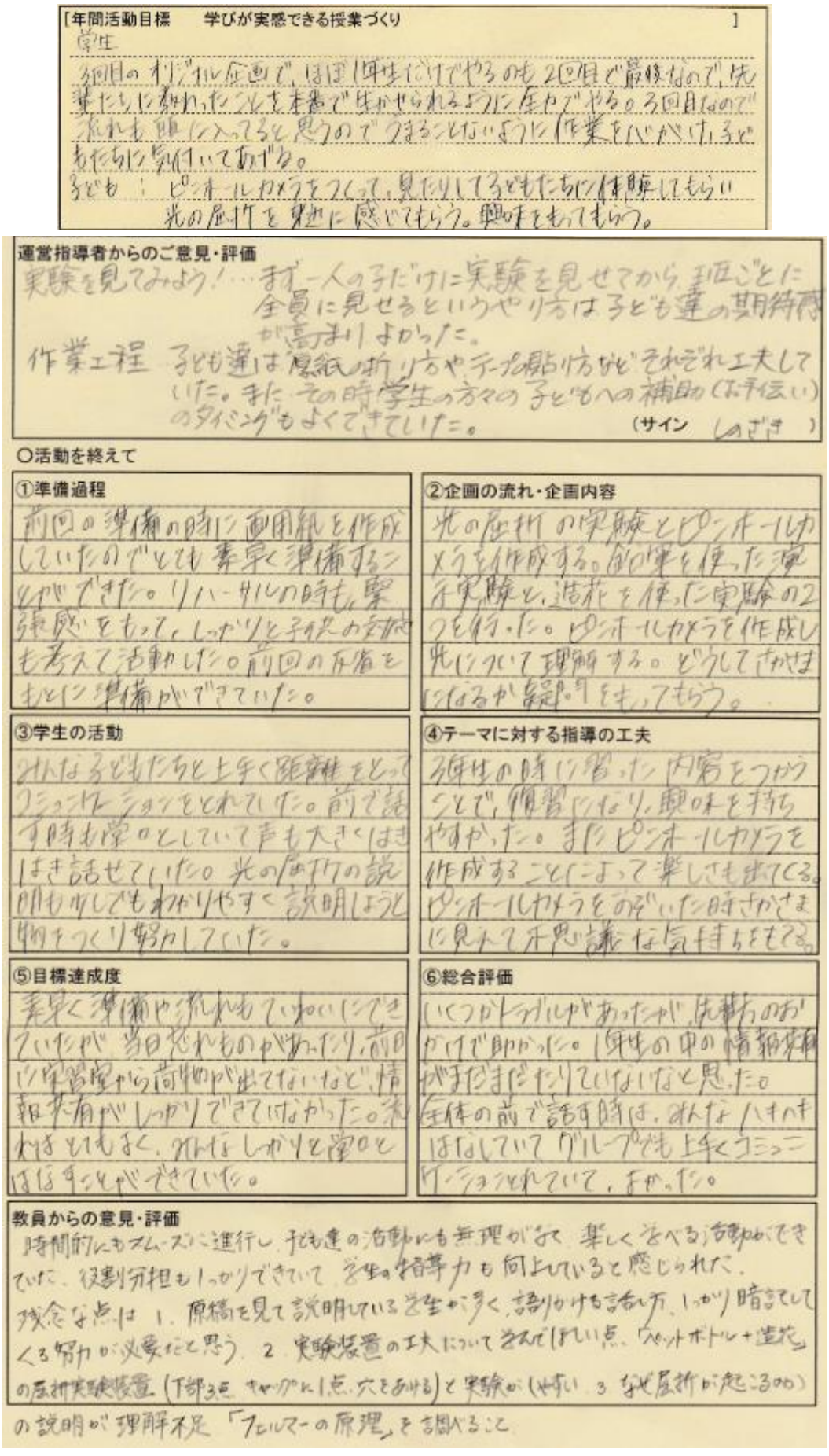
・作業スペースを確保するために必要のないものは別の場所に置いたり、児童の席の配置も工夫するとよい。

3－3. 活動写真

2）児童感想文

学年	感想
4	おもしろかった。楽しかった。びっくりした。レンズを取り付けるのがむずかしかった。工作用紙を山折りにするのに力がいるから、むずかしかった。でも、はさみを使ったら、かんたんにできた！！
4	欠席
4	ピンホールカメラの逆になるしくみがわからなかったけど、まること黒いシートを使ったらよく分かった。
4	このピンホールカメラを作ったことや光の実験でいろいろなことをしることができ、楽しむことができました。また当選したら、また来たいです。
4	思ったよりたんじゅんにできたのでびっくりしました！また来たいです。（なぜかクリスマス風になってしまった・・・）
4	フィルムがスクリーンの役割になっていて、家でも、いろんなところをうつしてみたい。
4	研究員がやさしくておもしろかったです。
4	実験的でとも面白かったです。
4	レンズを通ったら上下さかさになる
4	いろんな話をしたりしてすごく楽しかったです。むずかしいところもあったけどすごくすごく楽しかったです。またきたいです。
4	作るのがむずかしかった。
5	今日初めて来たけど作るのがすごく簡単ですごく楽しかったです。
5	色ぬりの時間は短いけど、楽しかった。
5	いろいろなぎじゅつをつかってつくったのがたのしかった。
5	今までやった土曜チャレンジの中で一番難しかったけど、しあがりがとてもよかった。苦労したかいがあったなと思います。
5	もうちょっとぬりたかったです。めっちゃびみょうだった。
5	とっても楽しかったです。デコるのも楽しかったし、テープではるのは少しむずかしかったけど、いい作品ができてよかったです。
5	デコる時に、レンズを花に見立てて、作ってみたり、工夫して作れました。テープの色をクリスマスカラーにしたりしました。
6	箱の中をのぞいて内側の箱を引いてみたら、スクリーンみたいで面白いと思いました。
見学者	ピンホールカメラを作るのがはじめてだけどお兄さんたちがおしえてもらったのですぐにわかりました。ありがとうございました。

3）活動経過



［年間活動目標　学びが実感できる授業づくり　］

学生

3回目のオリジナル企画で、ほぼ1年生だけでやるのも2回目で最後なので、先輩たちに教わったことを本番で生かせられるように全力でやる。3回目なので流れも頭に入ってると思うのでつまることないように作業をバがけ、子どもたちに気付いてあげる。

子ども：ピンホールカメラをつくって、見たりして子どもたちに体験してもらい光の屈折を見逃に感じてもらう。興味をもってもらう。

運営指導者からのご意見・評価

実験を見てみよう！…まず一人の子だけに実験を見せてから、班ごとに全員に見せるというやり方は子ども達の期待感が高まりよかった。

作業工程　子ども達は原紙の折り方やテープの貼り方などそれぞれ工夫していた。またその時学生の方々の子どもへの補助（お手伝い）のタイミングもよくできていた。

（サイン　しのざき　）

○活動を終えて

①準備過程

前回の準備の時に画用紙を作成していたのでとても素早く準備することができた。リハーサルの時も、緊張感をもって、しっかりと子供の対応も考えて活動した。前回の反省をもとに準備ができていた。

②企画の流れ・企画内容

光の屈折の実験とピンホールカメラを作成する。鉛筆を使った演示実験と、造花を使った実験の2つを行った。ピンホールカメラを作成し光について理解する。どうしてさかさまになるか疑問をもってもらう。

③学生の活動

みんな子どもたちと上手く距離をとってコミュニケーションをとれていた。前で話す時も堂々としていて声も大きくはきはき話せていた。光の屈折の説明も少しでもわかりやすく説明しようと物をつくり努力していた。

④テーマに対する指導の工夫

3年生の時に習った内容をつかうことで、復習になり、興味を持ちやすかった。またピンホールカメラを作成することによって楽しさも出てくる。ピンホールカメラをのぞいた時さかさまに見えて不思議な気持ちをもてる。

⑤目標達成度

素早く準備や流れもていねいにできていたが当日忘れものがあったり、前日に実習室から荷物が出てないなど、情報共有がしっかりできていなかった。流れはとてもよく、みんなしっかりと堂々とはなすことができていた。

⑥総合評価

いくつかトラブルがあったが、先輩方のおかげで助かった。1年生の中の情報共有がまだまだたりていないなと思った。全体の前で話す時は、みんなハキハキはなしていてグループでも上手くコミュニケーションとれていて、よかった。

教員からの意見・評価

時間的にもスムーズに進行し、子ども達の活動にも無理がなく、楽しく学べる活動ができていた。役割分担もしっかりできていて学生の指導力も向上していると感じられた。

残念な点は　1. 原稿を見て説明している学生が多く、語りかける話し方、しっかり暗記してくる努力が必要だと思う。2. 実験装置の工夫について学んでほしい点「ペットボトル＋造花」の屈折実験装置（下部3点、キャップに1点、穴をあける）と実験が（やすい　3. なぜ屈折が起こるのか）の説明が理解不足「フェルマーの原理」を調べること

（５）ふりふり発電実験

A. 北城小学校 10 月 29 日

1）取材報告（報告者：山田蓮）

1．企画概要

日時：10 月 29 日（土）9 時半～11 時半

2．参加者

小学 4～6 年生 20 名、大学 1・2 年生名 10 名

大学教員 1 名、運営指導者 1 名

3．活動報告

3－1．活動の様子

児童がコイル作りやLEDを取り付ける作業に対して､真剣に取り組んでいる姿が見られ、班員と協力して、楽しそうに活動していた。児童に対して、大学生も作業をサポートし、子供の目線に合わせて会話をしているところがとてもよかった。教室がいい雰囲気に包まれていて、最初から最後まで、児童の顔が笑顔だった。

3－2．企画の内容

企画のテーマ通り、ふりふり発電実験は子供たちにもわかりやすい内容で楽しく取り組んでいました。コイル作りと電磁誘導の説明の時、子供たちに伝わるように言葉だけで説明するだけでなく、体を使って、体全体で大きく説明していたところに工夫が感じられました。改善点としては、パワーポイントの文字が少し小さく見づらかったので大きくした方がより見やすくなるように思います。作業中、班に学生がいなく、子供たちだけで作業をしている場面があったので班に必ず一人は学生がいたほうがいいと思います。

2）児童感想文

学年	感想
4	欠席
4	楽しかった。べんきょうになった
4	電気がつかなかった
4	変な先生がたくさんいた。
4	つかれる作業がいっぱいだったけど楽しかった
4	欠席
4	楽しかったです
4	なかなかつかなくて、ちょっとむずかしかったけど、家でも遊べるのでいいアイディアだと思います。
4	3回目だけど、毎回とてもたのしいです！次回も来ます！
5	つかれた！！楽しかった！！
5	一番大変だったのは、けずるのとコイルをつくること。コイルのまき方をきんとうにまくのはきんとうがまずわからなかったのでむずかしかったです。けずるのもかなり力がいるので、大変でした。じしゃくとエナメル線とストローとビニールテープとライトで電気がつくのは見たことも聞いたこともなかったので良いけいけんになりました。ありがとうございました。
5	たのしかった
5	でんちを使わずにひかったのでびっくりした。かんどうした。これで夜道もだいじょーぶー！
5	楽しかったです
5	おもしろかった、楽しかった、もう少し、むずかしいのもやってみたい。ふるのがつかれる。
5	楽しかった
5	ふってはつでんするのはむずかしいと思った。つくるのは楽しかったけど、電気はつかなかったからざんねんだった。
5	楽しかったです。またやりたいです。
5	楽しかった。
5	ぜんぜんつかなかった。じりょくがつよい。
4	感想なし。

3）活動経過

［年間活動目標　学びが実感できる授業づくり　］

初めてのオリジナル企画なので、活動が遅れたりすることなく、円滑に進むように時間管理をしっかりする。また、作業が遅れたり、困っている児童がいたら、学生がやってしまうのではなく、なるべく児童が自分でできるようなサポートをする。電磁誘導を利用した発電機を作る活動を通して、電磁石への興味・関心を高める。理科が楽しいものであると感じさせる。

けがなどでのけがが絶対におこらないようにするため、学生は自分の担当する班の児童から目をはなさず、常に安全に配慮する。

運営指導者からのご意見・評価

今回は4年生と5年生で男子が多かった様です。特に4年生ぐらいの時期は動きも大きく元気が良いので、エスカレートすると悪ふざけに発展します。
企画内容によっては危険も伴います。常に、子供達には、目を配り、メリハリのある活動が出来ると良いですね。

（サイン　河原　）

○活動を終えて

①準備過程	②企画の流れ・企画内容
時間通りには始められなかったが、素速く準備できたので開始時刻にはまにあったのでよかった。ただ、バットの中に最初は入れず、あとから追加するものまではじめに入れていた。企画書に記載するだけでなく、別でリストを作製するべきだった。	つくはずのLEDが全くつかなくて、途中で磁石の数を増やした。3cmの長さになるはずのコイルを5cmで作らせていたので、次回はこのようなミスがないようにしたい。また、子どもの振り方でもつくように、改良する必要があると感じた。
③学生の活動	**④テーマに対する指導の工夫**
特に、丹羽・田中ペアのLEDを取り付ける説明が子どもたちを楽しませていた。動きまわってしまう子どもを放っておかず、常に見ていたことは良かった。言葉づかいが今後の課題のように感じた。また、「だめ」と言ってしまうことが多かったが言い方をかえる必要があった。	小学5年生で習う電磁石の性質をさらに発展させた電磁誘導について、5年生の学習に絡めて説明をした。ただ、まだ習っていなかったようなので、さらにかみくだいた説明のしかたにしていかなければならない。
⑤目標達成度	**⑥総合評価**
安全に怪我なく終わることができたし、時間の面でもオーバーしたら別のところを削ったり、臨機応変に対応できたように思う。しかし、肝心な実験の部分でLEDがつかないハプニングがおきてしまったのでこれから改善したい。	時間内に終われたことはまず良かったと思う。しかし、LEDが付く児童が少なすぎて、ネオジウム磁石を倍に増やす対処をした。また、予想以上に児童は振ることが苦手なようだったので、改良を加え9割以上の児童が成功す

教員からの意見・評価

児童の喜びそうな様子が見られた企画でした。休み時間は、活発になり過ぎる場面もありましたので、注意したいです。企画途中の小物（ポンポン）を耳に入れて遊ぶ児童がいたため、配布のタイミングに、注意点があればいいと思いました。教卓でのパフォーマンスを加えた説明は、とてもわかりやすかったです。ネオジウム磁石の注意書は、ぜひ作って下さい。

（吉岡 ゆい）

B. **松原小学校 11 月 12 日**

1）**取材報告**（報告者：鈴木綾乃、松澤史憲）

1. 企画概要

日時：11 月 12 日（土）9 時半～11 時半

2. 参加者

小学 4～6 年生 11 名、大学 1・2 年生 8 名、

大学教員 1 名、小学校関係者 1 名、運営指導者 1 名

3. 活動報告

3－1. 活動の様子

・どの学生も児童たちが飽きないような工夫が考えられた説明・活動の仕方であった。

・児童の笑顔がたくさん見られ、児童が思い思いのよい作品を作れていた。

・ハサミを入れるための箱があるなど児童の安全についてきちんと考えられていた。

・電池なしで電気がつくことに驚いていた児童が多く、企画案がよいものであると感じた。

3－2. 企画の内容

・児童によって作業時間に差が出てくることを考慮して待てるように新たなやることを考えられていて児童があまり退屈に感じずにいられた。

・説明で使う言葉を統一してあげた方が児童にはわかりやすいと思った。

・作業中に学生が椅子に座っているのがちらほらあったのでやめた方がよい。

・前に集めて説明をすることはもちろん大切だが、もう少しパワーポイントの活用を。

・タイマーで何分間だけでなく、何時までなのかも伝えてあげるとよりよい。タイマーの黒板への貼り忘れも注意。

・前で説明をしている時に周りにあるものを手に取り遊んでいる子がちらほらいたので机の上は必要最低限にした方がよい。

・空いた時間で別のことをさせるのはよい考えだと思ったが、盛り上がりすぎてどっちがメインなのか分からなくならないように度合いを考えた方がよい。

2）**児童感想文**

学年	感想
4	予想より、おもしろかったです☆また来たいデース！
4	楽しかった　次回も行きたい　先生たちがおもしろかった。
4	夜に使いたいすごかった
4	初めてつくったのでたのしかった
4	今日は、すごくたのしかったです。〇〇先生と〇〇先生がすごくおもしろかったです。
4	ふりふりするとつかれるけどついたらうれしかったです
5	すごい！楽しい光ってすごい。
5	電池なしで電気がつくのがすごいと思った。はじめてつくったけど電気がついてよかった。どう線をまくのがたいへんだった

5	じしゃくではつでんできるのがすごかったです。エナメル線をまくのが大変でした。
6	ふるのは、つかれたけどたのしかった。
見学者	フリフリ発電きをやってたのしかったです。２ともおもしろくていいかたがじょうでしてた。

3）活動経過

[年間活動目標　学びが実感できる授業づくり　]

前回の初めてのオリジナル企画を行ったときにエナメル線を巻き終えた子どもが暇そうにしていたり、他事をしてしまっていたことを解決すること。また実験を行うことによる時間配分を臨機応変に対応すること。班につく学生たちがふりふり発電実験の内容についてしっかりと理解し、子どもに質問されても答えられるようにする。学校で学習する電磁石の分野と関連していることを子どもたちに知らせて、電磁石について興味・関心を高めさせる。

○活動を終えて

①準備過程	②企画の流れ・企画内容
今回のオリジナル企画では前回の反省を活かし、エナメル線を巻き終えた子どもに電磁石を使った釣り竿を作り、子どもたちが暇にならないような工夫をすることができた。当日の荷物搬入もスムーズであった。	ふりふり発電機は電池やコンセントからしか電気が流れてこないという子どもたちの常識をくつがえらせることのできる内容だったと思う。暇な子どもがでないように工夫をしたが企画が予定より早く終ってしまい、時間について考えなければいけない
③学生の活動	**④テーマに対する指導の工夫**
今回のオリジナル企画では体調不良で2人の学生が企画に参加することができず、学生の数が少なくなってしまった。当日に重要な役割を担っている学生もおり、心配ではあったが、なんとか企画を円滑に行うことができた。	ふりふり発電実験は、小学校5年生で学習する電磁石の性質を発展させた電磁誘導を利用しているから教科書の写真などを見せて、わかりやすいようにした。もっと視覚的にわかりやすくしていくと良いと思った。
⑤目標達成度	**⑥総合評価**
松原小学校の参加人数が10人と少数ではあったが、前日の反省を活かした電磁石釣り竿をうまく使用することができたことは大きかった。時間配分の対応については目標を達成できるほどうまくはできていなかった。	子どもを暇にさせない工夫を考え、今日の企画ではうまく利用できており、企画を良いかたちで終えることができた。休み時間に子どもたちが線を抜いたりしている子どももおり、まだまだ改善していかなければならない点もあると感じた。

教員からの意見・評価

とてもしっかりとできていました。前に出て説明する人たちがみんなとてもわかりやすく、すばらしい説明でした。松原小は子どもたちが比較的おとなしいのでやりやすいが、そうでないところの対処方法をみんなで話し合うとよいです。

C. 勝川小学校 12 月 17 日

1）**取材報告**（報告者：村田　大晟）

1．企画概要

日時：１２月１７日（土）9 時半～11 時半

2．参加者

小学 4～6 年生２８名、大学１・2 年生９名

大学教員１名、小学校関係者１名、教育委員会１名、運営指導者１名、観覧保護者４名

3．活動報告

3－1．活動の様子

・児童は最初から最後まで和気藹々とした空気があった。

・特に授業開始直後から児童と学生間での会話のなかで笑顔がよく見られた。

・学生は自分の班だけでなく、ほかの班や全体にも目を向けることが出来ていたと感じた。

・障害を持つ子も参加していたが滞ることなく作業できるような説明がなされていた。

3－2．企画の内容

・電球を光らせるという企画であったが、天気がよく光が見にくく感じた子どもがいた。

・障害を持った子も楽しく企画に参加できるような声掛けが本当によくできていた。

・子どもの人数も多かったが丁寧に楽しく活動できていたと感じた。

2）**児童感想文**

学年	感想
4	ふるのが楽しかったです。
4	4 回目だけどまいかいまいかいたのしかった。ひかっていたのがふしぎだった
4	5 年生の勉強ができて楽しかった。
4	ぜんぜんさいしょはなにをすれば分からなかったけど楽しかった
4	あまり電気がつかなかった。
4	ふるのがけっこうたのしい。だけどふるとき、てがつかれた。つくっているときも楽しかった。
4	ふるのがつかれるけどたのしい！！作るのがたのしかった。
4	あんまひかんなかった。自分でやると。
4	ふりふりするのがむずかしかった
4	ぜんぜんひからない。ひかったとしてもみえない。
4	白いはくいの人のせつめいがわかりやすくてとちゅうまではふっても電気がつかなかったけれど、白いはくいの人がおしえたらみどりはつかなかったけれど赤がついた。このきかいでとても電気がたいせつなことをしりました。また電気をつかう、おこす実験をやってみたいです。

4	むずかしかった　よそうしていたものとちがった
4	電池をつかっていないのについてびっくりしました。これからは、電気をたいせつにつかいたいです。これからも参加したいです。
4	でんちをつかっていないのにふったら電気がついてびっくりしました。
4	楽しかったです。
4	たのしかった
4	かわいくてたのしかったです。
5	しっぱいした。
5	ストローにエナメル線をまくのが大変でした。ふるのが楽しかったです。
5	今日は、はじめてでとってもたのしかったです。ほかの実験もやってみたいです。
5	ぼくは電気のことはまったくきょうみはなかったけどきょうの事業ではたのしくつくっておしえてくれてありがとうございます。またやりたいです。
5	すこしおくれたりもしたけど、きれいにつくようにできてよかったしはくいをきている人が手伝ってくれてよかった。
5	てこつくれた。
5	説明がおもしろかったです。
5	たのしかたです
6	難しい暗い所でやってみないとコンデンサーにつないで発電能力を見てみたい。
6	今日は、楽しかったです。
6	欠席

3）活動経過

［年間活動目標　学びが実感できる授業づくり］

今回の活動目標は子どもたちの色々な表状をみて、児童1人1人が目標をもって活動に取り組ませる。そして私たちは子どもたちのサポートにまわるようにする。

また今回は障害をもった児童もくるので今までよりも注意し楽しんでもらえるようにし全員完成できるようにする。

○活動を終えて

①準備過程

持ち物リストにシートを書くのを忘れたため当日にもってくることになった。企画書が前の活動とほぼ一緒になってしまったため、担当の先生を違う学校に行かせてしまった。これが一番のミスだ。

②企画の流れ・企画内容

内容は前の活動にくらべてグレードアップして説明も反省点を活かしていい説明となった。しかし、子どもたちの前で作業段階をする際に準備しなきゃいけないものができてなくて子どもたちに待つ時間をあたえてしまった。

③学生の活動

学生全員がとても楽しそうにやっていたため子どもたちも楽しそうにやっていた。説明や作業の際に難しいところがある時はまわりの学生と協力していいものをつくりあげていた。

④テーマに対する指導の工夫

電磁誘導の説明は毎回苦労していた。だが今回、演劇のような形にしたため、子どもたちが興味をもってくれた。そのためわかりやすい説明となった。LEDの説明は毎回のように笑いをとりわかりやすく子どもたちに説明ができたと思う。

⑤目標達成度

達成できたと思う。今回私は全体フォローだったため1人1人みてまわることができた。その子どもたちは楽しそうにやったり難しそうやったり真剣にやっていたりしているいろな表状をみることができた。障害をもった子もしっかりと目標をもってやっていたと思う

⑥総合評価

それぞれの学生が最高のパフォーマンスをしていたと思う。私もだがミスをしてしまった学生もいたけれど他の学生の力をかりながら無事に活動を終えることができた。このメンバーで今期最後の活動を終えることができてよかった。

教員からの意見・評価

全体的によく準備されており、スムーズに進行できていたと思います。学生と子どもとのかかわりもよく楽しませることができていたと思います。ただ、ポケットに手を入れたまま、女子児童への軽々しいスキンシップ、言葉づかいの3点については、気になる学生がいました。

（6）万華鏡を作ろう！

A. 松原小学校 10 月 29 日

1）取材報告（報告者：村田）

1. 企画概要

日時：10 月 28 日（土）9 時半～11 時半

2. 参加者

小学 4～6 年生 24 名、大学 1・2 年生 9 名

大学教員 1 名、小学校関係者 1 名、教育委員会 1 名、運営指導者 1 名

3. 活動報告

3－1. 活動の様子

・児童は最初から最後まで和気藹々とした空気があった。

・特に授業開始直後から児童と学生間での会話のなかで笑顔がよく見られた。

・学生は自分の班だけでなく、ほかの班や全体にも目を向けることが出来ていたと感じた。

3－2. 企画の内容

・企画の中で黒い紙を円形に切る場面があったが、児童が切る円が見にくいと言っていた。

・円がボールペンで書かれていたので鉛筆、またはサインペンなど見やすいもので円を描くなどの改善が必要であると思われる。

・今回は装飾の時間が想定よりも必要になったのだが、それまでの作業がとても円滑に進み、かつ学生の説明の時間を５分とってあったため、余裕をもって子どもたちが作品の制作を出来たと感じた。

2）児童感想文

学年	感想
4	家で一回、万げきょうをつくったことがあったけど、作り方がちがったから、また新しい体験ができたのでよかったです。
4	万げ鏡を作るのに、こんな身近なもので作れるなんて知らなかったので、とてもおどろきました。
4	しもんをつけていけないところがむずかしかった。
4	とってもきれいになってうれしかったです。先生もやさしかったです。いけたらまたいきたいです。
4	先生がいろいろとおもしろかった
4	ふつうだった。その理由は、つくるのがむずかしかった。
5	ビーズのしゅるいがおおかったので、まよったけど、じょうずにできたからうれしかったです～！
5	ビーズを入れるときビーズがばらまいたけど先生たちが助けてくれました。中部大学のみなさんありがとうございます。楽しかったです！！

5	めんどくさいのが多かった。楽しかった。マステがかわいかった。
5	おりがみをはるのがむずかしかったです。できあがったのを見たらとてもきれいでした。
5	マステがとてもかわいかったです。思ったいた以上によくできたのでよかったです。ありがとうございました
5	画よう紙にマステをはるのが楽しかった。
5	しもんがつきそうでつかなかった。せつめいがうまかった。
5	かがみにしもんがつきそうだったびーずがとびちった。
5	ビーズをいれたときに、おもしろくできてたのしかった。またやりたいです。
5	ビーズを考えるのがむずかしかったけど楽しかったし、マステではるのが楽しかったです。
5	万華鏡は初めて作ったけど、楽しかったです。特に、ビーズをいれたり、デコったりするのが楽しかったです。またやってみたいです。
5	かざりつけをするのが楽しかった。かんげきょうを作るとちゅうに逆から見るとプラネタリウムみたいでおもしろかった。
5	今日、初めてまんげきょうを作ったけど、かざりつけやマステをはったりする時がたのしくて、かがみをつけたりしたときがむずかしかったです。でも、おうちでも作ってみたいです。
6	けんびきょうをたのしくつくれてたのしかった。
6	いままでまんげきょうをつくったことがなくてきょうつくってみてとてもたのしかったです。
6	作るのは難しかったけどかんせいしたときうれしかった
6	今日はとっても楽しかったです。
6	いまいちなまんげきょう
3	まんげきょうのことをおしえてくれてありがとうございました。まんげきょうのことよくわかりました。

3）活動経過

[年間活動目標　　学びが実感できる授業づくり　　]

準備段階では、1人1人が万華鏡の使い方を理解し、更に自分の工夫もできるようにする。子どもたちにも教える際、予備実験で得た知識と工夫を生かせるようにする。

本番の準備では、自らやるべきことを見つけることができるよう、メンバー1人1人が持ち物や動きを把握し、指示されなくても動けるようにする。発表時には子どもたちを楽しませ、興味を惹くことができるよう、明るく発表する。私は、全体を把握し、的確に指示する。

運営指導者からのご意見・評価

○説明のとき、声も大きく、ハキハキとして笑顔だったのがよかった。
○作業時間を前もって教えてくれるので、子ども達も作業がしやすいと思う。
○黒画用紙の丸は色鉛筆で書くと、線が見えやすいと思った。
○全体的に雰囲気が良く、子ども達もリラックスして万華鏡を作っていけた。○最後の自由時間があり良かった。

（サイン　しのざき　）

○活動を終えて

①準備過程

材料や物品は準備万全のつもりが、黒画用紙に書いてある線が見えにくかったり、白画用紙ののりしろが大きかったりと、子ども目線で準備できていなかった。前日にパッと用意できるものは用意していて当日助かった。

②企画の流れ・企画内容

ビーズを自由に選ばせることができるので子どもたちも楽しんでいた。装飾のおりがみやマステだけでなく、ビーズやモールも使って装飾していた。前半は時間が迫っていたが、結果的に丁度よく終われた。

③学生の活動

受付してすぐ発表しなければいけない学生がおり、企画書段階で考慮できていなかった。発表では声が出ていてよかったが、子どもの様子（注目しているか、話を聞いているか）を見ずに話し始める人が多かった。子どもとの交流はよかった。

④テーマに対する指導の工夫

制作についての説明ではパワポのみだったが、子どもがよく理解できていなかったため、拡大教材などを作り、前に集めて演示する方が良い。

黒画用紙の線が見えないため、白に変えるかする。

⑤目標達成度

万華鏡の作り方を1人1人が大体把握することができていたが、子どもたち1人1人への指導が追いついていなかった。学生は指示されなくても動けていたし、発表時も声が出ていて明るく発表できていた。私は全体の指示があまりできていなかった。

⑥総合評価

実際にやってみてわかる改善点が多かった。企画自体は子ども目線に立って考える必要があった。学生は、人数が少ない中、積極的に行動できていた。発表時も声が大きく、明るくて良かった。問題児への対応が課題である。

教員からの意見・評価

事故もなく、企画前から児童と学生の楽しそうな笑い声が聞こえる良い企画でした。
しかし、説明の不十分さがあり、学生が児童への指導を間違え、消耗品を余分に使用する
場面も見られました。学生に頼らず、児童が理解できる全体説明を次回の企画で
期待したいと思います。

（　味岡ゆい　）

B. **北城小学校 11 月 12 日**

1）**取材報告**（報告者：浅井）

1. 企画概要

日時：１１月１２日（土）9 時半～11 時半

2. 参加者

小学 4～6 年生２５名、大学１・2 年生１１名

大学教員１名、小学校関係者１名、運営指導者１名 3. 活動報告

3－1. 活動の様子

身近にあるトイレットペーパーの芯を使い、不思議な世界を見せてくれる万華鏡を児童 25 人と学生 11 人共に笑顔で楽しく怪我なく安全に作成しました。きれいに装飾し、完成したオリジナル万華鏡には児童一人一人の個性が表れていました。

3－2. 企画の内容

企画を見ていて全体的に思ったことは活発的な活動だなと感じました。友達の万華鏡を鑑賞する際に学生がよくできている子の万華鏡を褒めたり、一緒に感動したりしていてよかったです。

はさみを使用する場面があったときにしっかりと注意していたので怪我なく企画を終わることができました。しかし子供が活発過ぎて話を聞いていなかったり、話していたりしていて指導してもすぐに話してしまっていたのでもう少し工夫が必要だなと感じました。

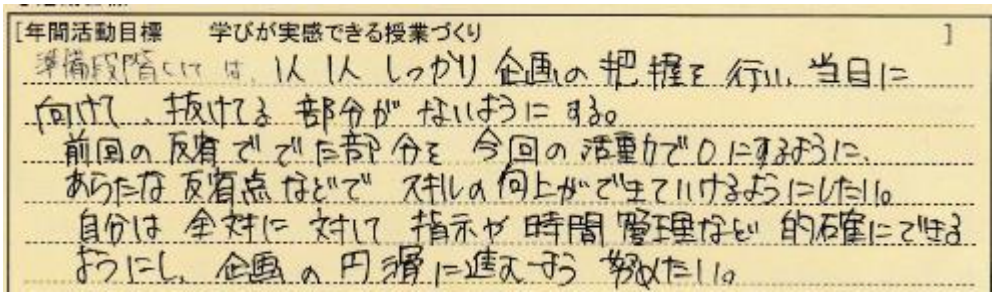
3－3. 活動写真

2）**児童感想文**

学年	感想
4	まんげきょうを作ってみて、ミラーに三角形するときに、しゅもんをつけずにテープをつけるのがむずかしかったです。
4	きれいたのしかった。
4	作のが楽しかった　ハイパー楽しかった　スーパー楽しかった　楽しい×1000　そのぐらい楽しかった

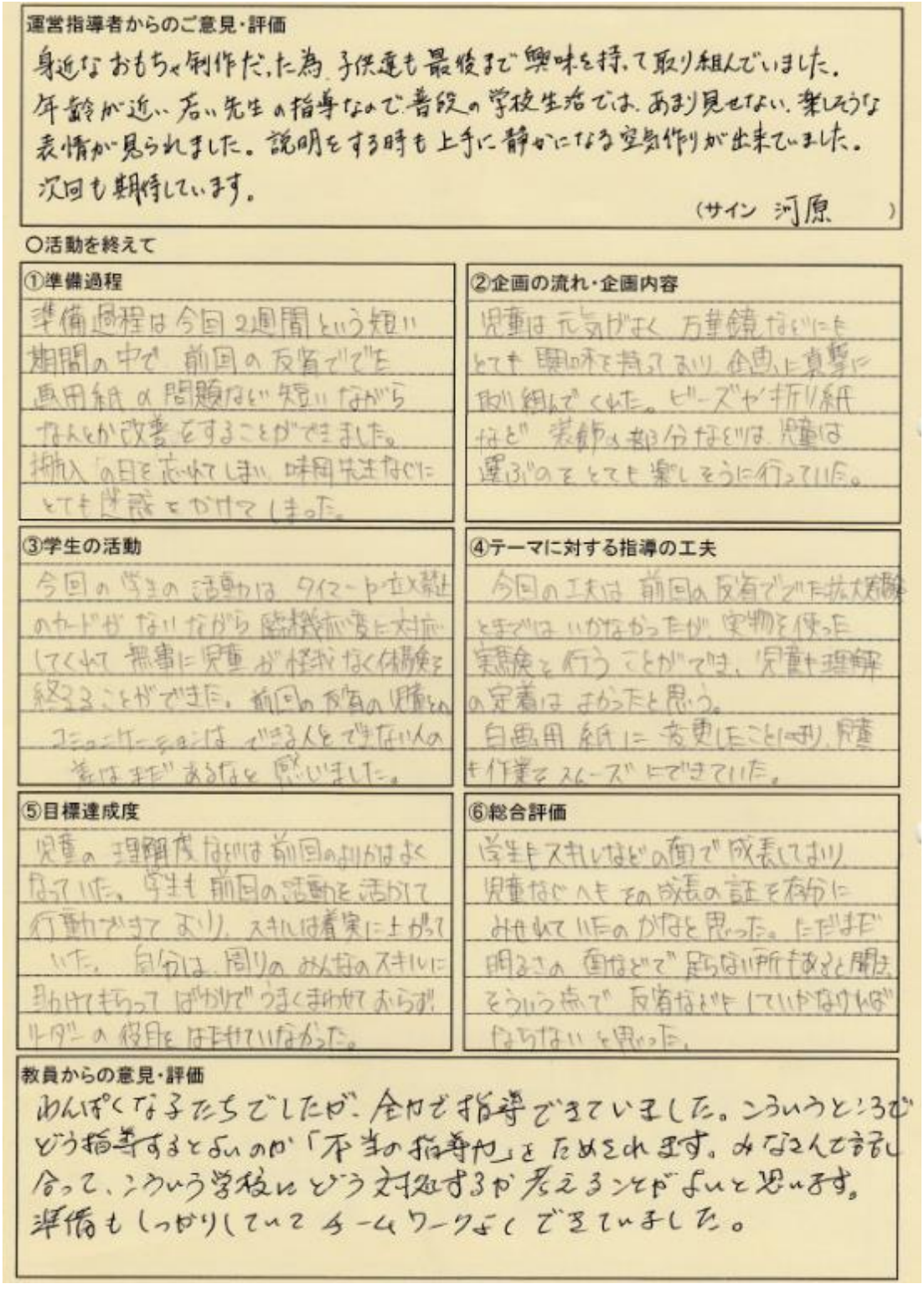
4	マスキングテープを画用紙につけるのがたいへんだったのでこんごからつけるときはくふうをしてつけいたいです。
4	マスキングテープで自分のオリジナルができてよかったです。ビーズで色々な作品ができていてみんなきれいだったので、これからも参加したいです。
4	たくさんのアイディアが光りました。かわいいビーズがたくさんあって、とてもきれいなまんげきょうが作れてうれしかったです。これからも、たくさんのアイディアを光らせてさんかさせてください。楽しかったです！これからもがんばってください。
4	マスキングテープで、はるのをがんばりました。また次回も行こうと思います。
4	万げきょうを作ってみてとても楽しかったです。わたしはマスキングテープではったかみをはるのがむずかしかったです。
4	マスキングテープがあってきれいにできました。ビーズやモールがたくさんあってよかったです。おりがみをいただきます。次も行きます。楽しみにしています。
5	のぞいてみるといろいろな形のかざりがあってきれいでした。
5	いつもより博士がきびしく、3 さい児が強く、まんげきょうも作ったことがあり、でもマスキングテープをこんなに楽しくはれて自分で鉛筆を使い穴を大きくし、ふでばこをつつむなといわれボーズがおおすぎてこぼれテープをはるのをこだわり、たんとうの人がやさしく、楽しかったです。
5	プラパンを切るのがむずかしくビーズのりょうがわかりませんでした。先生もてつだってくれたのでうれしかったです。フラワの形がおきにいりです。とてもたのしかったです。
5	たのしかったです。またきたいです
5	おり紙をはるのがむずかしかった。いろいろな種類があって、たのしかった。
5	きれいだった。オワタ　水たまりボンドトミーがいてこうふんした。サブもいた。またいきたいと思った。
5	べつにふつーだった。おり紙をはるのがむずかしかった。
5	マスキングテープを使った。
5	鏡にしもんをつけずにテープ等をはるのが、むずかしかった。かざりつけが楽しかった。
5	楽しかった！！
5	とても楽しかった。次も行きたいです。
5	たのしかったです。笑笑またきたいワロタ
5	ビーズを入れるのが楽しかった。自分で種類を決められたから。
5	たのしかった。こわれたのでざんねんだった。
5	楽しかった！こんど、家で作りたいです
5	楽しかった。きれいにできた。

3）活動経過



[年間活動目標　学びが実感できる授業づくり　]

準備段階としては、1人1人しっかり企画の把握を行い、当日に向けて、抜けてる部分がないようにする。
前回の反省ででた部分を今回の活動で0にするように、あらたな反省点などでスキルの向上ができていけるようにしたい。
自分は全対に対して指示や時間管理など的確にできるようにし、企画の円滑に進むよう努めたい。



運営指導者からのご意見・評価

身近なおもちゃ制作だった為、子供達も最後まで興味を持って取り組んでいました。年齢が近い若い先生の指導なので普段の学校生活では、あまり見せない、楽しそうな表情が見られました。説明をする時も上手に静かになる空気作りが出来ていました。次回も期待しています。

（サイン　河原　）

○活動を終えて

①準備過程

準備過程は今回2週間という短い期間の中で前回の反省ででた画用紙の問題など短いながらなんとか改善をすることができました。搬入の日を忘れてしまい、味岡先生などにとても迷惑をかけてしまった。

②企画の流れ・企画内容

児童は元気がよく万華鏡などにもとても興味を持っており、企画に真摯に取り組んでくれた。ビーズや折り紙など装飾の部分などは児童は選ぶのをとても楽しそうに行っていた。

③学生の活動

今回の学生の活動はタイマーや立入禁止のカードがないながら臨機応変に対応してくれて無事に児童が怪我なく体験を終えることができた。前回の反省の児童とのコミュニケーションはできる人とできない人の差はまだあるなと感じました。

④テーマに対する指導の工夫

今回の工夫は前回の反省ででた拡大実験とまではいかなかったが、実物を使った実験を行うことができ、児童も理解の定着はよかったと思う。
白画用紙に変更したことにより、児童も作業をスムーズにできていた。

⑤目標達成度

児童の理解度などは前回のよりかはよくなっていた。学生も前回の活動を活かして行動できており、スキルは着実に上がっていた。自分は周りのみんなのスキルに助けてもらってばかりでうまくまわせておらず、リーダーの役目をはたせていなかった。

⑥総合評価

学生もスキルなどの面で成長しており、児童などへもその成長の証を存分にみせれていたのかなと思った。ただまだ明るさの面などで足らない所もあると聞き、そういう点で反省などもしていかなければならないと思った。

教員からの意見・評価

わんぱくな子たちでしたが、全力で指導できていました。こういうところでどう指導するとよいのか「本当の指導力」をためされます。みなさんで話し合って、こういう学校にどう対処するか考えることがよいと思います。準備もしっかりしていてチームワークよくできていました。

C.　松山小学校 12 月 17 日

1）**取材報告**（報告者：吉岡・鈴木）

1．企画概要

日時：12 月 17 日（土）9 時半～11 時半

2．参加者

小学 4～6 年生 33 名、大学 1・2 年生 16 名

大学教員 2 名、教育委員会 1 名、運営指導者 1 名

3．活動報告

3－1．活動の様子

3 回目の活動なので、全体の流れをしっかり頭に入れて企画に参加していることが会場設営の段階から伝わってきました。児童との関わり方も自然で、児童も学生も楽しそうに活動していました。前で実演しながら説明している時に、机の上のゴミを片付けたり、整頓している 1 年生がいて、周りをよく見て、自分が今何をすべきか理解して行動していることが伝わってきて、1 年間を通してしっかり成長しているのではないかと感じることができました。

3－2．企画の内容

指導の工夫として、前に児童を集めて実演しながら説明し、完成品を見せることは児童も理解しやすいと感じました。しかし、全ての説明を実演すると、児童の作業時間が削られてしまったり、パワポが活かされていないという課題もあると思います。また、タイマーで作業時間を伝えることは徹底されていましたが、計画時の作業時間が短すぎて、延長してしまうことが多々あり、これは計画時から改善できたのではないかと思います。フィルムを切る時に、少し大きめに黒ペンで印をつけておくことで、児童がいきなり小さく切りすぎないようにしている工夫があり、その工夫が児童の切りすぎをしっかり防止していて、よかったと思います。最後に、はさみの扱い方について、班ごとで違いが見られるので、全ての班で統一していくべきであると思いました。

2）**児童感想文**

学年	感想
4	今日やる時むずかしそうだなーと思っていたけれど楽しくやることができてむずかしくなくて楽しくできてやさしい人がたくさんいてよかったです。また参加したいです。
4	となりのはんと作品をみあったとき、ヒトそれぞれちがってよかったです。
4	すごくきれいなさくひんができてよかったです。ほかのみんなもきれいなさくひんができていました。
4	さんかくと星のくっついていて、よかったです。
4	今日はとてもきちょうな体けんができてとてもたのしかったしよかったです。こ

	のまんげきょうは一生のおもい出になると思います。ありがとうございました！！
4	まわりをかわいくでこできたり、びーずをいっぱいいれて、きれいにできてうれしかったです。いがいとかんたんですぐできました。またきたいです。
4	始めてさんかをしたけど、楽しかったです、またさんかして作ったりしたいです。
4	まんげきょうを作るのはたのしかったけれどむずかしかったです。中にビーズを入れるときに中から飛び出すことがあったのでむずかしかったです。
4	プラバンをはるときは、むずかしかったけど、さいごのかざりつけや、ビーズをつくるときが１番楽しかったです。ありがとうございました。
4	楽しかった。
4	今回の土曜チャレンジアップは二回目です。今回はまんげきょうを作りましたが、とくにプラスチックばんをはめるのがむずかしかったです。
4	トイレットペーパーのしんなど、かんたんに入る物で作れるなんてびっくりしました。作れる時があれば、また作ってみたいです。
4	今日は、まんげきょうをつくって、とても楽しかったです。またやりたいと思いました。
4	両面テープをはがすのがむずかしかったです。
4	テープをはるのが楽しかった。
4	かんたんな所やむずかしい所もあったけど、先生がやさしく教えてくれたから、こんなに楽しく、みんなで仲よく作れてよかった。ミラーをくっつけてみたとき、とてもおもしろかったです。また、さんかしたいです。みんなで笑ってつくれてよかった。
4	みんなの作品がとてもじょうずでした。同じはんの子はみんなかざりつけが上手でした。家でも作りたいと思いました。かざりつけが一番たのしかったです。
4	万げきょうをなんかいかつくったことがありますが、かがみをいれてやるのは、はじめてでした。モールやビーズを入れて、なかをきれいにしました。とてもかんたんなさぎょうだったのでよかったです。
4	今日、この教室に来てとても詳しく教えてもらえてうれしかったし、たのしかった
4	先生たちはってもやさしく教えてくれました。すごーいていねんでほめてくれました。うれしいですっ！また土ようチャレンジアップに来ます。
4	中にビーズやモールを入れたりするのが楽しかったです。マスキングテープでかざりつけするのも楽しかったです。
4	今日はじめて土曜チャレンジアップ教室だったのでとても楽しかったです。

4	先生たちがわかりやすくおしえてくれてやさしかった。
4	友だちのまんげきょうがきれいだったです。
5	いろんな人のきれいな作品が見れた。ちょうこわれやすくってこわかった。ちょっとむずい！
5	今日まんげきょうをつくって一番むずかしかったのは紙をまんげきょうにはるときでした。くふうしたのは終わってから時間があったのでうらがえして紙をもう１回はりました。
5	むずかしかった　たのしかった　また作りたい　つくるのがうれしかった　当せんにえらんでください！
5	たくさんなつくりかたやひとそれぞれのこじんさがあってすごくたのしかったです。じかいもとうせんおねがいします。
5	とても楽しかった。またおうほしたときに当せんさせてください！
5	楽しかったです！材料は家にあるものがあったので、家でも作ってみたいです！作り方はかんたんだったけど、ミラーとミラーをはるのがむずかしかったです。何回か土曜チャレンジアップに来たことがあるけど、その中でも一番楽しかったです！
5	今日で２かいめですが、今日が一番楽しかった。むずかしかった所は、ミラーにテープをはるときです。でも、優しくおしえてくださったので、うまくできました。たのしかったのは、マスキングテープをはった時。またチャレンジアップをやりたいです。楽しみにしています！
6	身近なものを使ってまんげ鏡がつくれておどろいた。とても簡単だったのでおもしろかった。
6	先生たちがやさしくおしえてくれてとてもわかりやすくてまんげきょうがきれいに作れました。ありがとうございました。

3）活動経過

[年間活動目標　　学びが実感できる授業づくり　　]

オリジナル企画 1回目、2回目の失敗、反省点、取材先からの指摘された事などを改善できるようにするのが今回の活動当日の目標である。
準備段階では、1年生は自分の説明する所をしっかり教えられるようにする。2年生は今回初参加の人のバックアップと1年生へのアドバイスをするように努める。
子どもたちが満足できるような万華鏡を作れるようにサポートする

運営指導者からのご意見・評価

今日は参加人数が多く、大変にぎやかで楽しい雰囲気の中、活気ある活動ができました。作業時間に限りのある中で、遅れがちな子どもにスタッフが気を配り、丁寧に対応している所が良かったと思います。又、スタッフ同士の連絡や伝達もスムーズに行われていると感じました。うれしくなり、はしゃいでしまう子どもにも声かけができていました。

（サイン　㊞　）

〇活動を終えて

①準備過程

3回目にして初参加という学生が数人いる中、既に参加してきた学生のフォローもありスムーズに進んでいたのではないかと思う。前回、前々回の反省点を改善するため学生に気をつけてもらいたい事を細かくお願いしてしまったが全員がよく守ってくれた。今回学生の参加人数が多く、逆に準備の際中にやる事がなく暇になってしまう学生が多くいた。もっとうまく仕事をふりわければ良かった。

②企画の流れ・企画内容

子どもの半分以上が1年生で元気がよく始まる前から少しざわついてしまう子どもが多くいた。だが企画がはじまってからは作業に夢中になり、万華鏡をより良いものにできた子どもが多くいたのではないだろうか。より良いものを作りたいが故に少し時間がオーバーする事もあったがもっと時間配分を企画の時点で考えなおしたり、残り何分という事を伝えれば良かった。

③学生の活動

1年生は皆が自分の説明の時、こまめにタイマーの時間を確認するなどが出来ており、しっかり役割をもって活動が出来ていたと思う。2年生は担当の場所以外にも声をかけていたりした。
私が気づけていない事などを周りの学生が助言してくれたりしたおかげで無事ギリギリではあったが企画を時間内に終わる事ができた。本当に全員に助けられました。

④テーマに対する指導の工夫

今回の企画は装飾が子ども達にとっては重要な部分であり学生はあまり助言をしないようにした。学生では思いつかないような装飾をする子どもが多くいた。ミラーを3枚合わせただけのものでただ反射している物を見せてくれる子もおり、色のハーモニーを感じ楽しめている様子がうかがえた。

⑤目標達成度

1年生のリハーサルの時よりも大きな声でわかりやすく説明ができていたように思えた。2年生も1年生のフォローができていたのではないだろうか。前回前々回の反省点も結構改善されていたと思う。だが人数が多かったというだけで新しい反省点が何個も出てきてしまったのはまだまだ力が足りないという課題も見えた。

⑥総合評価

5月の企画の頃よりも全員が自分だけの事だけではなく、企画全体の見通しができていたり、教室の様子を把握できていたりと全員が成長できていると感じられた。子ども達も楽しんでできているように見えたし、学生も私がどんなムチャぶりを振ってもうまくこなしてくれていた。

教員からの意見・評価

1、2年生とも、「準備」「授業」「片づけ」など、各場面において、考えながら動けていました。特に2年リーダーは、全体を見渡しながら、適格に指示を出していました。
学生の説明を理解し、友達と話し合いながら、製作を楽しんでいる児童の姿が印象に残っています。　90分で万華鏡を製作・鑑賞まで指導するためには計画性が必要ですが、製作過程を分け、活動内容を小分けにするなど、遅れる児童がでないように留意しながら授業をすすめていました。

３．活動を振り返って

（１）学生からの意見

①６．７月の反省

○6 月全体会反省

・企画後の児童は班ごとにまとめて、昇降口まで送る。
・企画書をよく見て、進行していく。
　（児童への伝え忘れが多い。）
・時間を気にして進める。
・児童の作品であるため、学生は手を出しすぎない。
・大学生の呼び方を統一する。～先生。
・許可をもらっていないものを借りない。
・児童への指示（例えば、前を向きなさい。）は大学生も聞く。

○7 月全体会反省

項目	反省	改善点
1	班に学生がいなくなることがある。	企画書を作る際に班についている学生が 2 人同時に抜けることがないように注意する。フリーで動ける人を置いておく。
2	演示実験が見えづらい。	リハーサル、最終打ち合わせで確認。目的を理解し、それにふさわしい配慮をする。
3	使い終わった薬品、はさみが出ている。	企画書に片づけるタイミングも記載する。演示実験の場合は使った人が責任を持つ。
4	教壇への立ち入り禁止のテープの色が見えにくい。養生テープであっても、床がはがれる。	
5	忘れ物の多発	準備物一覧のリストを作成する。
6	児童の企画への感想が少ない。	企画中にできる限り企画に関係のある話を児童とする。遊びに行っているのではない。
7	タクシーの手配ができておらず、当日に焦る。	前日までにタクシーチケットを持っている人が手配。
8	児童に作業時間を意識させる。	作業開始の指示の前に必ず作業時間を伝える。タイマーを活用する。⇒タイマー4 台発注
9	認定証の渡し方	児童へ一言ずつ声をかけて渡す。

10	教壇周辺に集まりきっていないのに説明を始める。	発表者は全体を見よう。気づいた人が教えてあげよう。
11	早く終わった児童への対応	企画書を作る段階で、裏番組（テーマに関連した問題を提供）を用意する。
12	演示実験の準備不足＝学生が自身の役割を認識していない。	企画書に演示実験で使用する物を記載し、最初の発表者が前もって確認しよう。
13	小学校のものは元にあった場所に戻す。	机を動かす際は床にテープで目印をつけておく。備品を借りた場合は、借りた人が責任をもって片づける。
14	パソコン、パワポを置く場所	邪魔にならないならどんな場所に置いても良いが、コードはしっかり処理し（床にテープで貼る）、児童が引っかからないようにする。　⇒PC とプロジェクターの延長コード 2 本発注
15	学生同士の呼び方があいまい	「○○先生」で統一。友達ではなく先生としての振る舞いをする。
16	稲垣班：3 回手を叩いたら黙るルール	やるなら徹底する。
17	兄弟も参加したいという場合への対応	「同席は可能（条件：保護者が同じ部屋にいること）だが、材料の提供はしない」で統一する。
18	企画がたんたんと進みすぎ	パワーポイントを使用する必要はない。板書など、児童が分かりやすいと思う説明方法を工夫する。

[10 月企画に向けての徹底事項]

・企画中の携帯電話は禁止。カバンの中に入れ、休憩中であっても出さない。
・小学校の物はすべて、必ずもとにあった場所に戻す。
・呼び方を「○○先生」で統一。「お兄さん」「お姉さん」は禁止。
　また、振る舞いも先生らしくする。
・延長コードなど児童が引っかからないように処理をする。
・企画リーダーは準備物一覧のリストを作成する。
・作業の時間をどの程度とるのか正確に伝える。タイマーを利用する。
・児童に徹底させる前に、学生が模範となる行動を！
・企画書に薬品、刃物など危険物を片付けるタイミングを記載する。
・タクシーは前日までにタクシーチケットを持っている人が呼ぶ。
・企画書は予備実験の 3 日前までに提出し、予備実験時に配布→修正点を改善し、リハーサル 3 日前までに再提出。

・取材班は白衣を着用する必要はない。その他の服装、頭髪などは全員同じ条件を課す。

①来年につなげよう！1 年間の反省点

来年につなげよう！　1年間の反省点

（班リーダー：深見　　）

1．企画会議・予備実験・リハーサル・最終打ち合わせ

すんなり企画は決まった。　予備実験よりも前に何度も実験していたので、予備実験で焦らなかった。
リハーサルに本番同様の緊張感で行うことができなかったため、本番でミスが出た。
リハで必要なものを確認し、自ら用意する。

2．当日企画前

慣れによる気の緩みで説明に必要なものを忘れていた。

3．企画中

学校にもってきてはいけないものは出させないようにすることを徹底させるべきだった。
全員が時間を気にして、子どもたちに「あと○分」と声をかけてあげるべきだった。

企画リーダー声かけ→全体声かけ

変更点等何事も全て伝え、全員で把握しているようにするべき。

4．片付け

大学から持っていって小学校においてあるものはリストが入っているので確認すべき。

5．反省会

もっと意味のあるものにするべき。

6．その他意見

企画書にもっとくわしく書きこむべき。
髪色等、みだしなみについて、目をつぶっていることが多かった。

来年につなげよう！　１年間の反省点

（班リーダー：宮部 成矢　　）

１．企画会議・予備実験・リハーサル・最終打ち合わせ

・準備 搬入までに準備をしっかり。
・確実に全員参加。一人でも作業できるように。
・新聞は何かと使う →ストック。
・準備期間を長く。
・一人が仕事しすぎて、暇な人がいて、メリハリがない。
・1・2年ともにしっかりと意見を。
・言われたままだけで自ら考えなかった。
・一人一人に役割分担を。
・スタート、終了時間を明確に。→必ず予定を守りておく。

２．当日企画前

・前日までに企画書を見ていない→準備する人ができる人
・遅刻をなくす
・急遽変更した点を連絡しきれず、企画がバタバタ。
・機械操作の把握ができていない。
・荷物の置き場など学校ごとの違いが共有されておらず分からなかった。
・到着時間の確認。
・当日までに情報共有ができていない。→LINEを活用。

３．企画中

・○○先生呼びの徹底
・作業把握ができていない人がいる
・PPTの活用
・指示語が多く伝わっていない。
・時間を意識。
・1・2分の遅刻者に対しての対応
　→スタートを少し遅らせるなど。

４．片付け

・短い時間でテキパキと。
・取材性が多少なくても終わるように。→何もいいのか？
・準備した人が片付けた方がいい。

５．反省会

・企画後そのまま反省会をするなど反省会まで決めた方がいい。→当日に固定

６．その他意見

・身だしなみ
・忘れもの

来年につなげよう！　１年間の反省点

（班リーダー：中嶋　　）

１．企画会議・予備実験・リハーサル・最終打ち合わせ

- やるなら準備してこよう。
- ケータイ（リハ中）
- 予定を必ずあけて参加はしよう。
- 予備実験→正しくできているか？

２．当日企画前

- 準備の役割を把握しておく。→企画書をよく読んで理解しておく。
- 説明を言えるように練習。
- タクシーの予約をしっかりする。
- 忘れ物しない。

３．企画中

- 机に手をつかない。
- 安全面の配慮。
- 常に笑顔
- バットの中の道具→確認方法
- 学生と子どもの呼び方統一
- 声を大きく。
- プロジェクターの前に子どもを立たせない。

４．片付け

- 全員参加しよう。
- あった物をもとの場所に戻す。

５．反省会

- 反省会のやり方。
- なるべく当日にやりたい。→後日だと忘れてしまう。
- 反省用紙をきちんと書いて期限までに。

６．その他意見

- 情報共有をする。

来年につなげよう！　１年間の反省点

（班リーダー：稲垣　　）

１．企画会議・予備実験・リハーサル・最終打ち合わせ
他ごとをしている人がいる。
マックで遅刻した人がいる。
2年生に任せてしまう（1年）
物品の使用方法、点検。
荷物リストの作成
仕事内容の把握（各々）

２．当日企画前
、待っている時の子どもとのコミュニケーション
、遅刻
、忘れ物（白衣 etc）
、机の印
、誘導の立ち位置
、学校の使用方法の把握
、

３．企画中
、企画の流れの把握
、時間の管理 調整

・安全面への注意
、子どもとのコミュニケーション
（距離感）

４．片付け
、大学のものと、学校の物の区別
、持ってかえるものか置いておくものかの確認

５．反省会
、個人の反省が多くなる。→全体についても

６．その他意見
情報共有
話を聞かない

②活動を通して、得た能力

土曜チャレンジ・アップ教室に参加する学生を対象に 12 月下旬に、アンケートを実施した。アンケート回答者は 44 名。アンケートの結果は以下の通りである。

ア．回答者の学年と性別

	1年生	2年生	総計
男	17	13	30
女	8	6	14
総計	25	19	44

イ．回答者の学年と活動回数

	1年生	2年生	総計
2回	1	0	1
3回	5	3	8
4回	11	6	17
5回	8	10	18
総計	25	19	44

ウ．回答者の学年と取材回数

	1年生	2年生	総計
0回	11	2	13
1回	9	14	23
2回	5	1	6
3回	0	2	2
総計	25	19	44

エ．回答者の学年と企画リーダー経験

	1年生	2年生	総計
無	20	7	27
有	5	12	17
総計	25	19	44

オ．活動全般を通して高まった力

能力	学生意見
責任感 24 名	1 つの説明は 1 人で行うことで責任感が芽生えた。 1 人 1 人が責任もって行わないと成功しない。 2 年生としてのふるまいをするようにしたため。 相手が小学生だから、間違ったことが言えないから。 与えられたことを精いっぱい頑張った。 与えられた仕事を確実に行うから。 企画リーダーを行い、しっかりしないとと思ったから。 企画リーダーをしたから。 グループリーダーをやって、自分がしっかりしないといけないという気持ちを強く持った。 最後のリーダーが決定打。 自分 1 人の行動が全体にかかわってしまうから。

	自分でリーダーをやったから。 自分の班の子の安全を第１にと感じるから。 全体に迷惑をかけてしまうから。 人任せでは企画をやりきることができないから。 一人がミスすると全体に響くので、ミスが許されなかったから。 任された仕事をきっちりこなした。 役割を果たそうと努力したから。 やることに責任を持たなければいけないため。 リーダーとして、企画を成功させるために。 リーダーになってまとめたから リーダーをやったから。 リーダーをやったから。 リーダーをやってみて、人任せにできないと思ったから。
洞察力 12 名	子どもの気持ちに立つことができた。 子どもの様子や企画の進行状況などをよく見れるようになった。 児童の動きをよく観察するため。 児童をよく見て安全に気を付けた。 取材班としてほかの班の良いところと改善点をしっかり見ることができた。 全体をよく見て行動できたため。 どういう子なのか判断できるようになった。 班のことたち一人ひとりの進み方（スピード）を気にかけたから。 前より表情などから何がしたいか読み取れる。 周りを見ることができた。 周りを見るよう意識できたため。 リーダーがいかなるものかを良く見せてもらった。
計画性 9 名	企画を進めていくうえで計画しなければならなかったから。 企画を進めていく中で高まったと思うため。 企画をどのようにするか考えたから。 計画しないと失敗することを知ったから。 計画をしっかり立てることをしたから。 ちゃんと考えて活動しないと成功しないから。 本番でミスが起こらないように準備したから。 本番に向けて準備したから。 リハーサルな度を通して、計画的に準備をすすめることができた。
実践力 9 名	活動ごとに成長していった。 企画後の反省会などでたくさん気づきが挙げられたから。

	子どもと触れ合い、各々に合わせて対応できたから。 子どもの前で話したから。 これをしようと決めて実行した。 実際に子どもの前に立って話をしたから。 積極的に実践する子の大切さを学んだから。 児童の前に立ち、実践ばかりだったから。 前に立って話すことをしたから。
指導力 9名	企画リーダーをやって身についた。 教師の立場になり、子どもたちに指導することができた。 子どもたちに分かりやすく教えたから。 子どもとの接し方を学べた。 子どもの教え方を知った。 説明、演示実験 必死に教えたから。 前での説明を考えたり発表したから。 分かりやすい教え方を学ぶことができたから。
判断力 8名	安全面などを考えて行動で来た。 活動中に、何か問題が起きた時の判断 企画の時々のタイミングの判断により。 計画通りに進まなかったとき、判断で来た。 子どもの様子に合わせて行動しなければならないから。 児童が予想してない動きを取った時のとっさの判断。 児童の異変や危険を感じ取れるようになった。 臨機応変に動かなければいけないことが多かったから。
柔軟性 7名	イレギュラーへの対応への対応 様々な児童に合わせた関わり方ができた。 児童に合わせた態度と話をできるようになった。 児童の対応をしたから。 トラブルへの対応 何か問題が起きても解決する。 予想外の物事に落ち着いて対応できた。
協調性 7名	企画作りの上で身についた 協力して企画できた。 協力する大切さを知ったから。 仲良く協力した。 話すことが苦手だったが、子どもと接していくことで話すことができるようになったか

	ら。 班の人と仲良く活動できたから。 みんなで仲良くするため
積極性 6 名	活動中に児童と積極的に会話で来た。 活動に対して積極的に参加できたと思うから。 子どもたちと関わる姿勢を身に着けたから。 準備も本番も自分から動くことを意識していた。 積極的に取り組むことができたため。 積極的に反省や意見が言えるようになった。
活発性 4 名	子どもと活発にかかわることができたから。 子どもと積極的に関われるようになったから。 自ら進んで児童と話せた。 元気が取り柄、発揮した。
向上心 4 名	反省を生かしてさらに上を目指す気持ちがあったから。 もっと良くなりたいと思えた。 より成長したいと実感したから。 よりわかりやすく、楽しい活動を目指したから。
傾聴力 3 名	子どものつぶやきに気付くようになった 1 人の児童を見ている間も周りの声を聴けるようになった。 子どもの話をよく聞けた。
応用力 3 名	企画中、アクシデントが起きても対応した。 実施日に予想しないアクシデントが起きることが多かったから。 状況に応じて行動することが必要だったから。
組織力 3 名	1 つの班として仲間と目標に向けて一致団結できたから。 団体としての絆が必要と分かったから。 仲間との活動から身についた
表現力 3 名	伝え方を学べた。 話すときに興味を引くような話し方を工夫したから。 前で話すときの話術が身についたから。
発信力 2 名	児童に伝える力がついたから。 周りへの情報の発信が必要となったから。
社会性 2 名	社会性を学べた 班員との協力
思考力 2 名	実験について考えたから。 より良い企画にするためにはどうしたら良いか考えたかったため。
持続力	企画全部参加、取材班 2 度参加

2 名	続けていくことができたため。
共感性 2 名	児童への触れ合いの中でできていた。 みんなから様々な意見を聞くことができた
適応力 1 名	子どもによって話しかけ方、手伝い方を変えるようにしたため。
伝達力 1 名	何かあった時に伝えないと大災事につながるから。
分析力 1 名	同じことをするとしても、一人ひとりにあった声かけをしようと思ったから。
理解力 1 名	企画に関する物事をすべて理解する必要があったから。
論理性 1 名	打ち合わせの際にまとめることが多かったため。
主体性 1 名	1 年生で企画を考えさせてもらった。
確実性 1 名	ミスが起きないように注意深くなった。
演技力 1 名	前に立つことで教師のような振る舞いが身についた。
機動力 1 名	準備を早くするため。
客観性 1 名	全体を見る機会が多かったから。
構想力 1 名	どのように説明をするか考えた。

（2）土曜チャレンジ・アップ教室を振り返って（教員から）

春日井市教育委員会から中部大学あてに、土曜チャレンジ・アップ教室に関する依頼連絡をいただいたのは、平成 27 年 3 月 17 日のことであった。春日井市教育委員会から「土曜日に様々な経験を積んでいる子どもたちがいる一方で、必ずしも有意義に過ごせていない子どもたちも少なからずいる。春日井市では、子どもたちの自主性を高め、幅広い成長を促すとともに可能性を広げるため、土曜日を有効に活用した多様な活動を実施したい。」との依頼であった。子どもアカデミーでは、2014 年度までに大学へ小学生を招いたサイエンスプログラムを実施していた。同様のプログラムを大学内ではなく、小学校現場にて活動させていただく貴重なこの機会は学生にとって有意義な時間になると考え、参加させていただくことになった。

2016 年 4 月に入り、春日井市教育委員会のご支援のもと、年間スケジュールと土曜チャレンジ・アップ教室を実施する春日井市立小学校 4 校が決定し、今年度の活動が始まった。事前準備として、春日井市教育委員会のご支援のもと、土曜チャレンジ・アップ教室を実施する各小学校の家庭科室の下見を各小学校の校長先生、教頭先生、教務主任の先生方によるご協力を得て、5 月下旬に行った。下見では各小学校へ代表学生 3～4 名が参加し、土曜チャレンジ・アップ教室を開催する教室の場所や室内の配置、備品の個数、さらには大学生や児童の動線を確認した。また学内では、教科指導教員による企画内容や小学生への指導方法についての研修会のほか、小学校における活動への心構えや身だしなみなどの助言を行った。

6 月に入り、土曜チャレンジ・アップ教室が始動した。2016 年 12 月までに、のべ 401 名の児童が参加してくれ、複数回にわたり継続して参加する児童もいた。土曜チャレンジ・アップ教室の最後には児童らの感想を簡単にまとめて提出してもらった。児童らの素直な反応は、企画内容の構成や学生の説明方法に加え、土曜チャレンジ・アップ教室を見直すきっかけとなり、次の企画を考える際の学生らの励みになった。また、土曜チャレンジ・アップ教室を終えた学生からは上記のような感想が得られ、小学校現場での体験が学生自身の成長とともに、個人の課題を得たことが伺える。以下では、土曜チャレンジ・アップ教室に立ち会った教員の学生の活動に対する意見の中から特に多かった意見を列挙した。

・活動の反省を行い、次の活動に生かしてほしい。
・グループリーダーが 1 人で活動する姿が見られ（準備や片づけ)、学生同士のコミュニケーションを大切にしてほしい。
・企画内容を学生全員が細かくチェックする必要がある。

最後に、春日井市教育委員会と学校長に貴重な機会をいただいたこと、そして、指導運営委員の方々には、土曜チャレンジ・アップ教室における安全面の配慮や児童への接し方についてご指導ことに深く感謝したい。

成果公表

味岡ゆいほか 9 名（2017）「大学生の「教育的人間力」育成を目指して―子どもアカデミーの歩みと課題―」中部大学現代教育学研究紀要第 10 号、、pp.49-54

広報

あなたとの絆

春日井市 No.1588「地域の皆さんと共に楽しく学ぶ」平成 28 年 6 月 1 日

地域の皆さんと共に楽しく学ぶ

普段の学校の授業から離れて、地域の皆さんと共に文化やスポーツを体験するなど、さまざまな学習機会を設けています。身近なところで世代間交流を図ったり、優れた文化芸術に触れたりすることで、子どもたちの豊かな心を育みます。

土曜日を楽しく有効活用
「土曜チャレンジ・アップ教室」

地域の人材・大学・企業などと協力して、普段の学校の授業から発展した学びを楽しみながら体験する教室です。和紙ランプシェード作り、草木染め体験、オリンピック・パラリンピック体験などの教室が開講され、子どもたちは有意義な土曜日を過ごしています。

一人一人違う作品が作れて
良かったです。普段体験できないことが
できて楽しかったです。
（和紙ランプシェード作り体験）

予想と違う色が出てきて
驚きました。植物の知識が
広まって勉強になりました。
（草木染の体験）

楽しい土曜日を過ごしてほしい　中部大学2年 矢野まりな

子どもたちには できるだけ楽しんで帰って欲しいと思い、「土曜チャレンジ・アップ教室」に取り組んでいます。子どもたちに教えるに当たって、最初は緊張して、台本しか見ることができませんでしたが、回数を重ねるうちに、だんだん子どもたちの様子を見ながら進めることができるようになりました。表情が硬い子やコミュニケーションの苦手そうな子は、こちらから声を掛けていったり、アイデアやヒントを教えてあげたりして、なるべく笑顔をはぐくんでいます。

土曜日の過ごし方はその子によりけりです。自分が子どものころ、土日になると家族と楽しく過ごしていましたが、友達とはあまり遊ぶことができませんでした。この教室に参加すれば、友達ができますし、学年が違う子とも仲良くなれるので、これからも楽しい企画に子どもたちが参加してくれたらと思います。

6 | 広報春日井 平成28年6月1日号

活動情報の公開

なるほど！子どもアカデミーの HP を開設し、活動の様子を公開している。

付記

本活動は、**中部大学現代教育学研究所**「教育的人間力育成プロジェクトなるほど！子どもアカデミー]の研究経費の支援を受けた。

【配布資料】

平成 28 年度現代教育学研究所研究発表会

「教育的人間力」育成プロジェクト＜なるほど！子どもアカデミー＞活動報告

（1）プロジェクトメンバー

代表：高木徹

メンバー：吉田直子、小笠原豊、橋本美彦、小池嘉志、三島浩路、古市真智子、
長尾寛子、味岡ゆい、（休会中：小熊伸一）

（2）目的

「子どもアカデミー」活動の目的は、児童教育学科の教育課程を補完する課程外の活動を通して、学生の教育実践力、学びの意欲、地域貢献力などを育成するプログラムを開発し、その活動が学生の「教育的人間力」をはぐくむことを実証的に明らかにすることを目指す。また活動の継続を通して、最終的に持続可能な学びの体系化へとつなげていく。平成 28 年度は児童教育学科学生 65 名（1 年生 32 名、2 年生 28 名、3 年生 5 名）、教員 9 名が参加した。

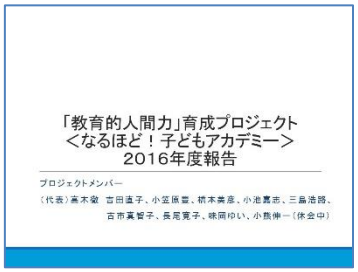
（3）活動の報告

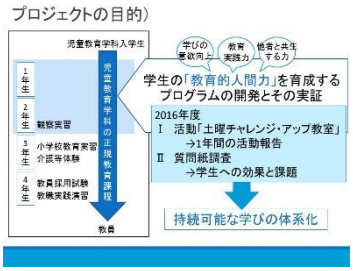
平成 28 年度は、教科教育の発展的学習支援を目指した「土曜チャレンジ・アップ教室」の運営を学生に実施させた。また活動期間中に学生対象の質問紙調査や随時教員打ち合わせを行い、実施した。土曜チャレンジ・アップ教室のねらいは児童らが小学校で学習した内容を活かした企画を設定し、学習内容の応用を通して、児童らの発展的発想力を養うことである。公立小学校 4 校へ出向き、小学 4～6 年生 30 名を対象に、1 校当たり年 4～5 回（6、7、10～12 月）、土曜午前の 2 時間、学生が企画した活動を行った。活動は、春日井市教育委員会より教材費のご支援、また公立小学校 3 校の校長先生及び教頭先生、企画管理指導者にご尽力いただき実施した。学生は活動当日までに、活動スケジュール及び活動企画書、児童配布資料の作成、さらに企画に関する教科理解などの企画研修を児童教育学科教員のもと受講し企画に臨んだ。また、活動当日の企画運営、記録は学生主体で行い、活動後には反省会を行い、月に 1 回の全体会では活動報告を通して学生間における学びの共有を図った。全 19 回の活動に対し、学生はのべ 249 人、児童はのべ 401 名が参加した。

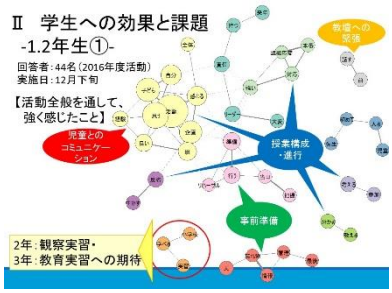
（4）学生からの意見調査と来年度への課題

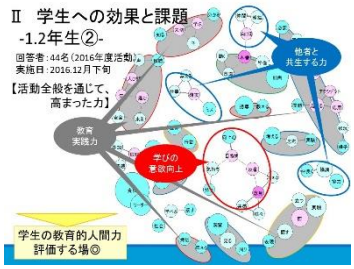
平成 28 年度の活動は、平成 27 年度から開始した土曜チャレンジ・アップ教室の開催校数が 4 校へ増え、実施した。学生からの意見調査は 2 回、異なる対象者に行った。1 つ目は、平成 27 年の活動に参加し、今年度小学校教育実習を受講した学生を対象に、子どもアカデミーの活動について調査した。その結果、9 名中 7 名の学生が、教育実習における授業の準備やその構成作業に対して、また教師としての心構えにおいて、大きな役割を見出す活動であることと意見し、土曜チャレンジ・アップ教室は、プレ教育実習の場として効果的であることが分かった。しかし、学生自身の活動意義の明確化や教育実習との違いを明らかに

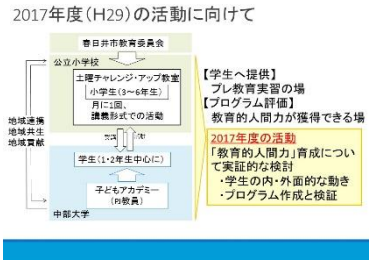
することを前提として活動する必要があることが示唆された。2 つ目は、平成 28 年度の活動を体験した 1、2 年生を対象に実施した。活動全般を通して、強く感じたことを聞いたところ、児童とのコミュニケーション力や授業構成などの教育実践的な面だけでなく、今後受講する教育実習への期待などが意見としてあがった。さらに、活動全般を通じて、高まった力を聞いたところ、教育実践力だけでなく、学びの向上や他者と共生する力など、教育人間力につながる力を学生自身が感じていることが分かった。今後は、学生の内・外面的な動きを評価し、学生の「教育的人間力」育成について実証的な検討を試みたい。











あとがきにかえて

「子どもアカデミー」には春日井市内外から子どもたちが多数参加され、熱心に講座に取り組んでいただきました。知的な活気にあふれる講座となったことをこの場を借りてお礼申し上げます。

本活動全体は、9 名の教員がそれぞれの専門性を生かしながら協同して推進しており、今後も継続していく予定です。主な役割分担として、全体統括、渉外を高木、概念、理論研究を吉田、学生への教科指導を高木・小笠原・橋本・小池・長尾・味岡、成果に関する調査研究を吉田・三島・古市、運営事務を吉田・古市・味岡が担当していますが、適宜全員で協議しながら進めました。本報告書もほぼ全員が何らかの形で執筆に関わっており、編集作業は主に味岡が行いました。

私たち教員の願いは、「子どもアカデミー」という地域に根ざした課外活動において、教師を目指す学生たちが教職に関する実践力をさらに高め、人間的な成長を遂げていくことです。そのような仕組みとして「子どもアカデミー」そのものも成長していければと願っています。

これからも地域や関係のみなさまのご支援をお願い致します。

2016 年度　「子どもアカデミー」活動報告書

発行日　2017 年 3 月 31 日
編集・発行　中部大学現代教育学部児童教育学科
「子どもアカデミー」
〒487-8501　愛知県春日井市松本町 1200
中部大学現代教育学部児童教育学科
TEL　0568-51-1111（代表）
代表　高木　徹